

SEMINAR HOUSE NEWS

セミナー・ハウス No.131・132

1994. 2. 25

＝巻頭言＝

会社本位主義批判 ● 奥村 宏 / 2

■ 第161回大学共同セミナー

〈会社〉とは何か / 4

■ 第12回大学院共同セミナー

心理療法における事例検討 / 6

■ 平成4年度教育プログラム白書 / 8

業務白書 / 9

■ 特集＝国際学生セミナー同窓会 / 10

■ 法人ニュース / 12

■ 千人会・寄贈図書・寄付 / 14

■ 業務通信 / 16

■ 利用状況 / 20

■ 開催予告・館長室から / 24



Plain living and high thinking

財団法人 大学セミナー・ハウス
INTER-UNIVERSITY SEMINAR HOUSE, INC.

会社本位主義批判

龍谷大学教授 奥村 宏

私が大企業崩壊論という講演をすると、よく「やはり大企業でないと自由にやれない。中小企業は資金的にも組織的にも自由にできない」という意見が出されます。確かにそういう面があることは否定しません。しかし、その自由とは企業社会の中で管理された自由なのではないでしょうか。

日本の企業社会を考える上で見過ごせないシステムとして「ノルマ労働」があります。ノルマというのはロシア語ですが、これが敗戦後日本にもたらされました。そして、銀行や証券会社はこのシステムを使って、大いに成功したのです。旧ソ連では強制されたノルマがほとんどでしたから、自発性は機能しないのです。そこではともすれば、普段あまり労働をせずに、締切がせまると急いで間に合わせればよいことにもなります。そうなると、できあがった製品の品質に問題が出てきます。

●半ば強制、半ば自発

日本のノルマ労働のシステムには熊沢誠氏が指摘するように、「半ば強制、半ば自発」という部分があります。例えば銀行で支店長が担当者と個別面談をする際「先月はこれだけやった。今月はこれだけのノルマでやれ」とよく言います。ノルマは絶対減ることはなく、どんどん増えていくものです。最初は担当者も「先月はこれだけやるのにこんなに苦勞をしましたから、これ以上できません」と主張しますが、話をしているうちにムードが変わって、「いや、やります。是非やらせて下さい」と言うようになります。このように、

日本の会社主義は「半ば強制、半ば自発」というシステムになっていきますが、これらはすべて会社のためになるようにできています。人間が働いている以上、必ずある程度の自発性はあります。その自発性を個人の自由にさせずに、管理して会社本位のシステムになるように使っているのです。

また、日本の労働経済学者たちの使用する言葉に「内部労働市場」があります。これは、会社の中が一つのマーケットのようになっていて、社員がその中でいろいろと職種を変えていくことをさします。外から見れば一種の自由かもしれません。これは個人の自由ではありません。人事部のコントロール下での管理された自由でしかないわけです。

そういう意味で多くの人が半ば自発的に労働していますから、その限りでは満足感があるのですが、良く考えてみると、その人の創造性を活かしたものではありません。そこに問題があります。私の提唱する「会社本位主義」と言いますか、企業に集約されてしまうようなシステムが完成されてしまい、しかもそういう会社感が日本人の中に強烈に形成されたことが、今日の状態を招いたといえます。今の会社の中で個人の自由を活かせる要素がないといえませんが、少なくとも大企業のシステムを変えていかないと、今の姿をそのままにしておいて、その中で個人の自発性を活かせるというのは基本的にできないことだと思います。

●モデルにならない自動車産業

会社論のみならず、私は日本の学問のあり

方に疑問を抱いています。かつて「日本の思想は全部輸入思想で、竹馬に乗って五歩か十歩歩いたら転ぶ」と言った人がいました。一つの思想や理論がだいたい五年から十年ほどしか持たないのです。レギュラシオン理論にしても、もうそろそろ行き詰まるのではないかと。そのようなことをずっと日本の学問は続けてきたのではないのでしょうか。

例えば、トヨタイズムはベンジャミン・コリアー氏が『逆転の思考』の中で高く評価していますし、日本の学者の中にも非常に高く評価している方がいます。しかし、このような評価に対しては、「非常に片寄った取材をもとに、会社に都合の良い議論をしている」という批判が出されていますし、私自身もそう思います。

私は、輸入された理論は支持しないということを書条にしていますけれども、それはオリジナリティが出ない議論をすることに問題があると思っているからです。しかし一つだけ、レギュラシオン理論から学ぶところもあります。それは、「ポスト・フォーダイズム」ということです。この議論は非常に役に立ちます。ただし、「フォーダイズム」および「ポスト・フォーダイズム」の概念については、統一されていません。

日本の自動車工業は、ポスト・フォーダイズムではなく、基本的にフォーダイズムのシステムでしかありません。しかも、ポスト・フォーダイズムを考察する際に、自動車工業をモデルにして議論すること自体が私はおかしい。少なくとも、これが成長産業だとは、どうしても考えられません。もはや日本の自



おくむら ひろし
1930年生まれ。岡山大学卒。著書に『法人資本主義』『日本の株式会社』『会社本位主義は崩れるか』他。

自動車産業は、最盛期を過ぎた産業ではないでしょうか。ですから、ポスト・フォードイズム、あるいは21世紀の企業システムについて議論をする際に、自動車産業をモデルにして、トヨタイズムやヴォルグイズムに関する議論をすること自体、そもそも問題があります。もっと違う産業が対象となるべきではないでしょうか。

●美化できない欧米の会社

私は今まで日本の法人資本主義、あるいは会社本位主義に関して語ってきたわけですが、それらを初めから一貫して批判しています。その場合によく「日本の会社が批判されている一方で、アメリカやヨーロッパの会社が美化されすぎている」という批判を受けます。私は決して、欧米の会社を美化しているわけではありませんけれども、日本の会社を批判するときには、「ヨーロッパの会社はこうであるが、それに対して日本は問題がある」と言います。しかし、私の著作を読んだ人たちのなかには、「奥村氏は欧米の会社を評価する一方で、法人資本主義はいけないという。それでは、再度個人資本主義に戻り、個人株主を復活しろということなのか。それは17世紀から19世紀の、古典的株式会社制度にしろということになるのではないか」という批判をする方もいます。大学の先生のなかにも、私あての手紙でそのように批判される方もいます。しかしながら、このように読まれることは、私にとっては心外です。

例えば、ルネサンスにおいて中世が批判される場合、古代ギリシャなどが引き合いに出

されました。それと同様に、何らかの批判をする時には、空想的理想をもって語るのではなく、やはり実例を提示して批判する以外に方法がないのです。「古典・古代に帰れ」といつても、実際に帰れるわけがないのです。私が現代の日本の会社を批判する時の材料は欧米の会社ですが、それしか実例がわからないからです。しかし、それは決して欧米の会社が至上であることを意味するものではありません。

●会社本位主義を增長させたもの

一般的に、株式会社は株主のもので、協同組合だったら組合員のもので、ところが、日本の会社は実際には誰のものかと言えば、それは会社のものだという答えしかできません。

日本の企業は、会社は従業員の共同体であるといえながら、一方では株主主権だということがあります。商法に基づいて成立しているのですが、ダブル・スタンダードがあるのです。それ自体に非常に無理がありますが、その無理が通ったことが、「会社本位主義がまかり通った」ということだと思います。

日本の会社本位主義を增長する役割を果たしてきたのは、とりわけ大企業の労働組合ではないかと思えます。労働組合がある程度のカウンターパワーとして、経営者側に対して様々な要求を出してきたことは否定しませんが、しかしながら、そのことを考慮しても、

全体的に日本の会社本位主義が労働組合によって増長された部分は大いいのではないのでしょうか。そのことへの反省が、日本の労働組

合には欠けているのではないかと、私はとりわけ労働組合の人たちに講演を依頼される折にはそう言います。やはり私には、「会社本位主義自体は悪くない」ということに対して批判があるからです。

●新しい企業像を考える

多くの人は批判されるのですが、私自身は、株式会社というシステムはもはや最盛期を過ぎたと思います。だからこそ、私たちは新しい企業像を議論しなければなりません。単純に、ヨーロッパの模倣をすればいいと言うわけではないのです。そこで、その新しい企業像をどういうところから議論するかということになりますが、それは夢物語では困ります。ところが、リアリティのある話をするためのモデルが、残念ながら存在しないのです。

それで、私が提唱しているのが、例えば「第三のイタリア」と言われるイタリアのスマートフォンビジネスや、あるいはスペインのモンドラゴンなどのシステムです。それらは全面的に優れているというわけではないのですが、一つの実験として評価すべきでしょう。

現在一番大事なことは、21世紀の新しい企業像をつくっていくかなければいけないということです。私は外国の文献をそのまま輸入することを軽蔑しています。しかし、日本の中に新たな企業像を考えるための芽があればいいのですけれども、手がかりがなかなかみつからないのが現状だろうと思います。

(文責・編集者)

〈会社〉とは何か

▼ゲスト講演

企業社会・再考

ルポライター 鎌田 慧氏

▼セクシヨン演習

A 会社本位主義は崩れる

龍谷大学経済学部教授 奥村 宏氏

京都大学大学院人間・環境研究科助教

間宮陽介氏

B これからの働き方と人事管理——生活との調和、柔軟化、個別管理——

法政大学経営学部教授 佐藤博樹氏

C 効率と公正から日本企業を考える

東京大学経済学部助教 伊藤正直氏

D 企業の栄枯盛衰をどう読むか——さらなる国際化の波の中で——

アメリカンホンダモーターカンパニー前取締役副社長・本田技研工業(株)本社参与

木村 敦氏

E 現代会社人間の歴史的ルーツ

一橋大学経済研究所教授 斎藤 修氏

木村 敦氏

【運営委員】

明治学院大学文学部教授 宇波 彰氏

京都大学大学院人間・環境研究科助教

間宮陽介氏

東京経済大学経済学部教授 桜井哲夫氏



日本人の職業のなかで最も多いのは、おそらく「会社員」であろう。日本人の多くが、子供の時から塾や予備校に通い、

「受験地獄」にあえぐのも、なるべく「良い大学」に入り、それによって「良い会社」に入ろうとするからである。そのため大学は一種の「会社員養成所」になっているといっても過言ではない。

そして、「良い会社」に入って親になると、今度は自分の子供を「良い会社」に入れようとして、一所懸命残業をしたり、「過労死」の危機を乗り越えたりして、教育費を払うことになる。つまり、われわれ日本人は「会社」というものを中心にして生活し、働いているのである。

いままで日本人は、自分たちが働く〈会社〉を「ウチ」として意識してきた。〈会社〉のために働くことが一種の美德であるとさえ考えられ、〈会社〉が政治家に献金することさえ、〈会社〉の発展のためであるとされてきた。〈会社〉は政治とも深い関係にあると言える。

ところが、最近になって、いわゆる「バブルの崩壊」と共に、日本の〈会社〉の基本原理であった「終身雇用制」が危うくなってきた。〈会社〉から切斷されてしまった「会社員」はどうなるのかという問題が生まれつつある。これは〈会社〉そのものの変化のきざしであるのかもしれない。

このように日本人の生活と不可分の関係にあり、日本人の意識を規定する大き



私たち日本人は〈会社〉を中心に生活し、働いている。しかし、そもそも〈会社〉とは何か。バブル崩壊後に〈会社〉の真の姿がみえてくる。生き方の問題として討論した——正面右から、宇波、桜井、間宮、奥村、鎌田、佐藤、木村、伊藤、斎藤の各氏（学院セミナー館にて）

な要因の一つでもあり、さらに、日本の政治と深くつながっていてもいると考えられる〈会社〉の本質を、最近の〈会社〉の変化を踏まえつつ、多面的に考えることが今回のセミナーのねらいである。折し

も、就職活動の時期と重なったためか参加者は20校・51名（内21名は社会人）と少なかったが、活発な議論が交わされた。

最近の新聞報道を見ても、会社はもう行き着くところまで来たという感じがしている。日本の企業体質というのは汚職と談合と裏金で賄われてきた。しかも会社・政治家・役人のなかで、誰が一番権力を持っているのかわからない権力の円環構造ができていく。さらに近年では、この構造に暴力団が介入することが明らかになっている。

●企業と社会の日本的特質

日本人は解雇されることによってプライドが傷つく。生活できないということだけでなく、自分は社会的に認められなくなったという心理的影響も大きい。つまり一生そこにいるという前提があるから、近所に対して恥ずかしい、何か悪いことをしたのでないかという極めて前近代的な感覚がある。これまでは、欧米の経営者に比べると日本の経営者は簡単に解雇はしないという意識があったが、最近では解雇は珍しくない。

かつて九州地方の鉱山会社で公害が発生し、マスクで騒がれたことがある。ところが取材では、一番被害を受けている住民が公害がないと主張する。一つは公害病が発生すると、その集落が差別的に見られて結婚などの障害になるという恐れがあった。もう一つは鉱山の末長い存続を住民は望んでいたし、鉱山側も「共存共栄」という言葉を盛んに使っていた。しかし、そこには「文句があっても黙っている、そうすれば食わしてやる」という意識がどこかに反映されていたように思われる。もし鉱山に依存しないで田畑だけで暮らしていると、「生活を鉱毒が破壊している」という構図になるが、農民が鉱山従業員でもある状況があった。そのため「マスクが勝手に書いてる」という批判になってしまう。



また、希望退職の募集などがある際に、それらを認めない少数派を、大多数を占めている労働組合が取り囲んで辞職を強制し、暴力をふるった事例もいくつあった。しかし、彼らは外ではごく普通の穏やかな人間である。本人が暴力的な体質を持つていからではなく、そうしなければ自分が辞めさせられるという不安感が暴力を行使させる。これも日本の企業の一つの特質だと思う。

そして選挙の際には、労働組合出身者を会社が後援をして一部政党の議員にすることは珍しくない。単に政治改革というだけで解決する問題ではなく、その根本にある極めて日常的な市民社会の構造まで見る必要がある。

さらに暴力団との関係について指摘したい。数年前に商法が改正され、総会屋に便宜供与したものは刑事罰になるとされたが、公然・非公然に総会屋が采配を振るっている。その総会屋はだいたいが暴力団が中心になっている。株主総会は、株主が会社について討論するという唯一の機会に開かれたい。マスクも入れない密室状態になってしまっている。だから外国の投資家から最近批判が上ってきている。ここに企業に対する日本の常識と欧米の常識の違いがはっきりしてきたのではないか。

●脆かった企業への幻想

公害をめぐる労働者も企業の論理に包摂されたことを指摘したが、これには高度成長時代に作ってきた「パイを大きくして分け前を増やす」という体質が絡んでいる。それが明確に示されているのが生産性向上運動である。この運動が定着して、60年代は要求通りの賃上げが満たされてきた。そのなかで、「もう労働組合はいらない、会社が従業員の生活を心配してきちんと食べるようにしてくれ」という意識が生まれた。しかし、73年のオイル・ショックの際、経営者側が提起したのは雇用か賃上げかという二者択一の論理だった。

大量解雇がなかつたのは64年から73年の10年間くらいで、日本企業と日本社会に対する幻想は、たかだか10年くらいの景気の繁栄期でしかなかった。極めて脆いものである。現在「リストラ」という言葉が流行しているが、円高もあるから今後どんどん強まってくる。この象徴が先日発表され

た自動車工場の閉鎖である。これまで日本資本主義の中心であった産業で工場閉鎖が始まるという、産業史のエポック・メイキングになる問題でマスクミが大騒ぎした。表向きには内需が減って自動車売れなくなつて工場を閉鎖するという観測がある。しかしそうではなく、極めて本質的な問題がある。

●日本の経営は崩壊している

一つは海外に工場を過剰に展開したことによる産業空洞化で、もう一つはスクラップ・アンド・ビルドである。アメリカの自動車不況の際、マリーケットの30%を日本車が占めている状態で、日本は「アメリカの工場が海外に行つてしまったからだ」と言っていた。これは極めて単純明快な指摘で、国際戦略に応じて海外展開したことによって国内生産が空洞化したため、労働者が解雇されたということ、それが日本でも現われた。これから他のメーカーも工場閉鎖を始めるだろう。

就職する学生の意識も時代が反映されている。ここ数年は電気メーカーが一番人気があり、毎年一社で千人以上採用していた。彼らに将来について聞くと「定年になるまでは大丈夫でしょう」と言う。しかし、日本の産業構造は時代によってどんどん変わり、盛衰のサイクルが短くなつてきている。敗戦直後は、炭鉱業と鉄鋼業が浮上した。その後、造船・機械の順で政策誘導が行なわれ、自動車産業が成功した。さらに電化製品の輸出を成立させ、それから情報ソフトに資金が出た経緯がある。そのようなスクラップ・アンド・ビルドの結果、非常に産業の展開が早い。今の学生が定年まで勤務できる産業はないだろう。現実認識がまだ遅れているから、大企業や成長産業に入っていると安心だという幻想がある。しかし、もはや生涯雇用や年功序列型賃金という日本的経営は崩壊している。

●企業と社会の民主化を

過労死は労働現場では珍しくなかつたが、労災認定されることはほとんどなかつた。しかし一流企業のエリートたちも過労死するなかで、日本の矛盾や亀裂が大きくなつてきた。それと今の政治状況を、私はパラレルに見ている。やはり企業内の一定の民主化と地域内の民主化を進めないかぎり、政治の民主化は始まらないのではないかと。

(文責・編集者)

今回のセミナーは、ドイツへの留学を目前とした私にとって、日本での大学生生活を振り返る貴重な機会となった。実際に企業で経営に携わる木村先生のセクシオン演習に参加することに、死ねまでの人生を見つめた「自己発見の旅」へと導かれた。演習では、参加者が一人ずつ企業に対して抱えている問題意識を発表していった。それに対して、木村先生からの企業人としての体験に基づく意見や他の参加者からの質疑によって各人の問題意識が益々鮮明になっていき、それを模造紙に一人ずつ箇条書きにした。

会社と人生

——自己発見のさらなる旅——

お茶の水女子大学大学院 小林玲子

次に、「会社」という枠組みから離れて、先生の産業カウンセラーや僧侶としての経験と知識メントの理論と方法を学んだ。それから人生における人間としての目標や課題について一人ずつ発表し、共に考え、表にまとめた。そして、2枚の表を見比べてみると、これまで全く別の事柄としてとらえていた自分の人生における課題と研究テーマが同じ関心の上根ざしていることに気づき、驚いてしまった。まさに今までわからなかつた自分を発見したのである。

また、演習では廓庵禅師の「十牛圖」に習い、自分の生まれてから死ぬまでの人生を十章に分けてシナリオを書くことを試みた。現在の自分や自分の行動について、人生の中でどのように位置づけるかを考察することは、普段は後回しにしていたので、宿題となった。しかし、私自身の足元を見据えるいい機会になつたと思う。

心理療法における事例検討

心理療法における事例研究は、臨床心理学の原点であるといわれている。臨床心理学を専攻する者は、様々な悩みを抱えて来談したクライエントを目の前にしてその人をどう理解し、どのような働きかけをしたらよいのか、瞬時に判断し、対応しなければならぬ。

心理療法に実際に携わる者は、臨床の場で常にこうした事態にさらされている。こうしたときにものをいうのは、その心理臨床家の固有の感性だけでなく、様々な治療事例について通暁していることである。つまり、来談したクライエントの病理や心理についての理解だけでなく、心理療法を開始すると、どのような時期にどのようなことが起こってくるのか、自己体験を通して知っていなければならない。

今回のセミナーは、日本心理臨床学会の中心メンバーとして鋭意活躍中の臨床家を講師として、心理臨床活動を開始したばかりの若い大学院生に、現在取り組んでいる臨床事例を提出してもらい、それについて様々な観点から検討し、そこから「臨床の知」なるものをどのようにして引き出したらよいのかを議論した。なお、全国の大学院生に参加を呼びかけた結果、四国や東北地方の大学も含めて

25大学・114名の参加者があった。

●心理療法の基礎を踏まえる

セミナーでは最初に、実際に心理療法に携わっている講師から臨床の取り組み方についての発言があった。

芸術療法を受けているクライエントの中には、芸術を過度に追求し、深みの中にめり込んでしまう人もいる。その結果、心のアンバランスが強まり、かえって症状が悪化することが多い。芸術・表現療法が専門の山中康裕・京都大学教育学部教授は「心理療法と芸術追求は、必ずしも一致するものではなく、とにかく表現することが重要で、そのプロセスに意味がある」と指摘された。

家庭裁判所調査官として、少年やその保護者に面接してきたが、心理学の知識と目前の人々が結びつかないことを痛感した——と臨床経験を語る村瀬嘉代子・大正大学カウンセリング研究所教授は、セラピストがどうすれば自分のナルシズムから自由になれるのかという問題を提起された。

精神分析的治療は言語を重視する。セラピストがクライエントを洞察し、心の自然治癒力を発揮させるためには、洞察のための解釈を認められる関係や状況を作

り出す言語の「やりとり」をしながら、クライエントを抱え続けることが必要になる。こうした点を事例を通して観察したいと、心理療法に関する様々な分野のスタッフを抱える賀陽濟・北山研究所長は、心理療法における言語の問題について指摘された。

臨床をすると初回面接は必ずあるが、そこではいろいろなきことが起きる。セラピストにとって得意な事例ばかりとは限らず、会話が全くない場合もある。「そのときは、どのくらいこちらが相手の状態を把握できるかが問題になってくる」と空井健三・中京大学文学部教授は初回面接と見立ての問題をめぐって発言。

心理療法では、クライエントの中に起こるものがセラピストの前に次々に提示されるが、それらをいろいろな面から観察、イメージを連想したり増幅させる中で本質をつかまなければならない。そしてそれに共感しながら同時に動くことが求められる。その作業を、夢分析の事例を中心に検討したいと、今回のセミナーを企画された運営委員の小川捷之・上智大学文学部教授は発言された。

◇
そもそも心理療法において事例研究は学問として正当に位置づけられてこなかった。河合隼雄・国際日本文化研究センター教授はゲスト講演「心理療法における事例検討の意義」の中でこの点を明確にされた。治療者とクライエントの関係のあり方それ自体が重要な因子であり、



右より、小川、北山、河合、岡、山中、空井、村瀬の各氏——ようこそ広場にて

一回限りの現象を重視しなくてはならない心理療法においては、自然科学で成功した方法論をそのまま適応することはできない。個々の事例を検討しながら、各人が自分なりの世界観を持ち、患者との関係のとり方を学んでいくしかない——河合氏は事例研究の方法論的位置づけと実際に事例研究をする上での問題点を指摘され、臨床家をめざす参加者に大きなインパクトを与えた。

●セラピストが守るべきこと

河合氏の講演の後、上智大学院生で心理療法を学んでいる田中康裕氏の時間制限法を利用した箱庭療法の事例報告があったが、その発表をめぐって主に次のような指摘があった。

①診断者（インテーカー）の役割。心理療法では最初に診断者がクライエント



と深い話をしてしまうと、クライエントはそれに引つ張られてしまつて、なかなか治療が進まないことがある。そのため診断者は、できるだけ短時間で基本的なところを聞き、要点をまとめなければならぬ。

②時間制限療法の功罪。時間無制限に治療を行なうと、クライエントの心の中の下ドロドロしたものが次々と出てきてしまふおそれがある。そうすると、セラピ

スト自身がそれに巻き込まれ、傷ついてしまい、能力の限界を感じて辞職するセラピストもいる。そのため、「最初から時間的制限を決めておけば、かなり難しいケースでも決められた回数の中で治療が行なえる」(小川氏)。ただし、時間制限には、「人工的なものと自然発生的なものがあり、人工的な場合には、病理が深刻だと見捨てる結果にもなる」(北山修・九州大学教育学部助教授)ので注意

〔事例研究をめぐって〕自然科学的方法をそのまま使うことができない臨床心理学では、個々の事例研究を積み重ねるとともに、臨床家自身が自分なりの世界観を持っていなければならない——正面左より、小川、田中(事例の発表者)、河合、山中、北山、村瀬、空井の各氏(講堂)

しなければならない。

③クライエントによつて表現されるものは、いろいろな見方ができる。のみならず、一見ネガティブに思える反応でも、その背後ではポジティブな反応が起きていることがある。それをセラピストは忘れてはならない。

④セラピストのクライエントに対する接し方の問題。心理療法は、人の心を傷つけることもある。クライエントが人間として成長していくことが大切である。また、クライエントは時として悲観的なことを訴えてくることもある。しかし、それらに対しても普通に接

し続けることがセラピストには求められる。そしてクライエントのセラピストに対するプライベートルな質問に対しては、正確に考えなくてもよい。答え方は、クライエントとの相関係の中で自ずと決まつてくる。「クライエントが何を必要としているか。それに応じていろいろな役割を演ずることができなければ、セラピストとはいえない」(村瀬氏)。

●「情報」を再構成する

三日目の全員による討論では、初回面接における情報をめぐる問題に議論が集中した。ケースによつては、診断者が持つている情報と、セラピストが受け取つた印象が必ずしも一致しないことがある。また、母子面接の事例の場合には、母親の情報と子供の情報が食い違うことがよくある。そこで問題になるのは、誰が何を語つたか、そして違った点は何かということである。診断者の情報を全て鵜呑みにせず、もう一回クライエントとの間で情報が再構成されるべきである。

◇ 心理療法は、セラピストがクライエントを操作することによつて生まれてくるのではなく、共に体験することではじめて存在する。だからこそクライエントとの関係の中で、発生することの積み重ねが大切になってくる。

また、治療の過程で発生するものは多様であるが、それらを解釈することでは

なく、全身で受けとめることが重要であり、それを通じて心の中に何かが動いてきていることを味わうことである。そこではセラピストもまた鍛えられる。そしてその鍛錬の基礎は、心理臨床の事例検討のなかで得られるものではないか。

もちろん、事例研究によつて報告された「事実」はそれ一回限りの物語である。しかし、報告者の行なっていることが、セラピスト自身にとって意味あることとして、いろいろなことを誘発するということがある。そのことを獲得するために、事例検討は必要である。

●「臨床の知」を深める

「ふだん何気なく使用している専門用語が、実はさっぱりわかっていなかった」(参加学生の感想)ということによくある。心理療法では、頭で考えることと違うことがあるということがわかればよい。その「二律背反をどうやって統合するかの仕事の本質」(空井氏)だからである。わかっていないことがわかれば、しめたものである。セラピストがクライエントと共に歩むなかで、混乱もあるだろうが成長していく。それが「臨床の知」であり、それを深めていくことが求められている。

表1 利用者別宿泊人数・ゼミ回数

| 利用者 | 人数・回数 | | ()内は前年度 | | |
|----------|--------------|--------|----------------|--------|---------|
| | グループ数 | 比率 (%) | 宿泊延人数 (人) | 比率 (%) | 1団体平均人数 |
| 会員校 | 502(496) | 47.0 | 25,736(25,431) | 40.5 | 35(34) |
| 非会員校 | 162(194) | 15.2 | 10,220(8,652) | 16.1 | 43(31) |
| 大学連合 | 65(70) | 6.1 | 6,448(5,267) | 10.2 | 45(37) |
| 学術・教育団体 | 132(147) | 12.3 | 9,165(9,996) | 14.4 | 44(38) |
| 企業・社会人団体 | 208(213) | 19.5 | 11,916(11,816) | 18.8 | 30(27) |
| 合計 | 1,069(1,120) | 100.0 | 63,485(61,162) | 100.0 | 39(33) |

●年間の宿泊利用者六万三、四八五人
平成4年度の宿泊利用者数は延べ六万三、四八五人(月平均五、二九〇人)、グループ数は一、〇六九(同八九)であった(表1)。対前年度比二、三三三人増で、開館以来の最多記録を更新し、2年連続六万人を超えた。
なお、開館から本年度末まで(27年9

図1 利用グループ別宿泊延人数

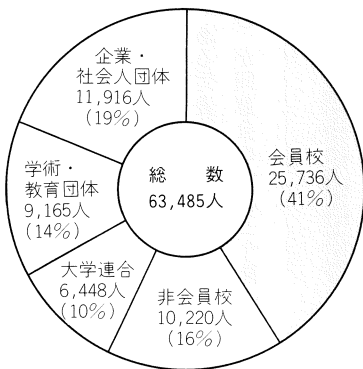
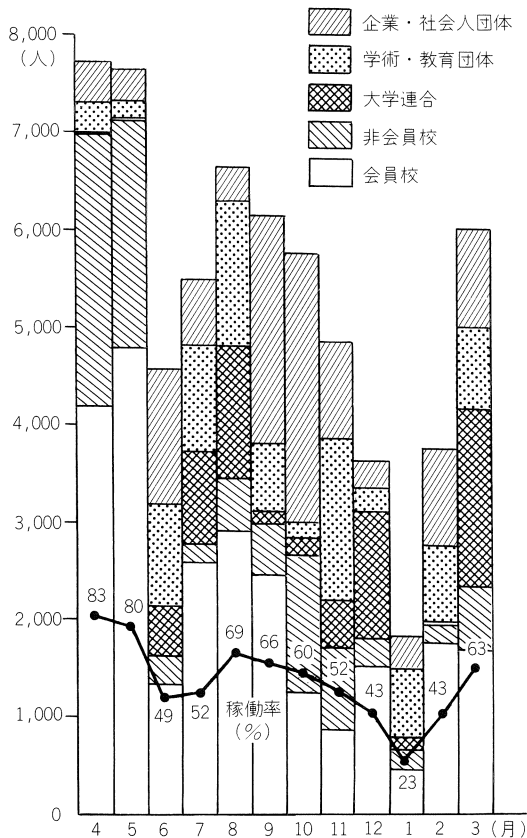


表2 会員校最多利用10校

| 順位 | 大学名 | グループ数 | 順位 | 大学名 | 宿泊延人数 |
|----|--------|-------|----|----------|-------|
| 1 | 中央大学 | 55 | 1 | 中央大学 | 3,573 |
| 2 | 東京都立大学 | 37 | 2 | 東京都立大学 | 1,129 |
| 3 | 東京学芸大学 | 30 | 3 | 東京学芸大学 | 1,062 |
| 4 | 早稲田大学 | 28 | 4 | 早稲田大学 | 968 |
| 5 | 法政大学 | 19 | 5 | 東京薬科大学 | 962 |
| 5 | 明治学院大学 | 19 | 5 | 学習院大学 | 962 |
| 7 | 駒沢大学 | 19 | 7 | 桜美林大学 | 733 |
| 8 | 東京大学 | 16 | 8 | 東京純心女子短大 | 719 |
| 9 | 東京理科大学 | 15 | 9 | 明星大学 | 661 |
| 9 | 学習院大学 | 15 | 10 | 明治学院大学 | 636 |

9

図2 月別・利用者別宿泊延人数と稼働率



なお、本年度最多利用の会員校一〇校を表2に示した。宿泊延人数では中央大

が昭和61年度以来七年間一位を維持している。また、東京都立大学が前年度六位から二位に躍進した。

●グループ別の利用状況

宿泊延人数全体に占めるグループ別の構成比率を図1で示した。「会員校」(本年度末現在計六八校)の利用は二万五、七三六人で前年度をやや上回ったが、構成比率では四一%(前年度四二%)であった。「大学連合」には当ハウス主催の各種教育プログラムをはじめ会員校の教師・学生が多数参加する諸集会が含まれているので、「会員校」の利用率は実質的にはこれより高い。しかし、会員校数増に比しては、その上昇はやや控えめで、まだ利用促進の働きかけが必要とされる。

●年間の稼働率五七・六%

年間の稼働日数は、1月の施設整備の二日と年末年始の休館七日を差し引いた三五五日で、宿舎の平均稼働率は五七・六%(前年度五五・七%)であった。図2に月別の利用状況と稼働率を示したが、平均を下回る月は、例年同様、年度後半(秋から冬)に多くなっている。

「学術・教育団体」と「企業・社会人団体」は計三三%(前年度三六%)を占めた。生涯学習への関心の高まりを反映して、能力開発、技能研修、リカレント教育など、社会人の様々な生涯教育の合宿が増えている。

特集Ⅱ 国際学生セミナー同窓会

設立記念シンポジウムを開く

まる1年にわたる準備を経て、ここに

ようやく国際学生セミナー同窓会が設立され、6月5日に60余名の会員を集めた設立総会が大学院セミナー館で開催され

た。

設立総会の開会式では、そもそもの仕掛人である代表幹事・吉原健吾氏（第16回参加）が同窓会の意義と今後の活動に

もつと継続的に勉強し、交流する場を

皆さんこの度はお忙しい中、国際学生セミナー同窓会の設立総会にご参集頂きましてありがとうございます。又、残念ながら本日本日出席頂けなかつた方の中にも、多数同窓会にご入会いただけましたことをとてもうれしく思っております。

● 設立のきっかけ

国際学生セミナー同窓会の設立に至ったそもそものきっかけは、本年度が国際学生セミナーが始まって第20回の記念すべきときにあたり、過去20回の有志を集めて何か同窓会的な記念行事をしようではないか、という提案があったことに端を発します。その当時私はセミナー・ハウスの企画室でアルバイトをさせて頂いていたこともあり、この提案を受けて、折をみては第1回から名簿の掘り起こしを始めました。

その一方で各回のめばしい人に声をかけさせて頂いたり、アンケートを実施したりしていく中で、「どうせ名簿もつくるんだし、もつと恒常的な会にしようよ」とか、「単に会っ

てなつかしいはいやだね」という声もありより持続的な会にする方向で準備を進めることに致しました。

● 継続的な交流とハウスの支援

こうして規約を作り、幹事会などの組織を作った上で今回の設立総会にこぎつけました。今年はこの設立総会、11月の第20回国際学生セミナーへのOB、OGの参加、来年1月の20回記念イベントの開催やニューズレターや名簿の発行等を考えています。

私なりにこの会の意義を考えると以下のようになります。

- (1) あのセミナーで得たことを2泊3日で終わらせたくない。もつと継続的に勉強し交流する場が欲しい。
- (2) 逆にああいう場は実際の社会の担い手である我々社会人にとって必要なものではないか。
- (3) こうした機会を与えてくれた国際学生セミナーそして大学セミナー・ハウスを何らかの形で支援したい。

ついで述べるとともに、発起人代表である齊藤大也氏（第9回）が発起人を代表して抱負を語った。さらに同窓会設立の裏方として采配を振るった事務局長・永野隆行氏（第16回）が同窓会設立の経過報告を行なった。

続いて歴代国際プログラム委員会の現委員長である渡辺昭夫氏（青山学院大学教授）、前委員長・広野良吉氏（成蹊大

● 高い期待と要求

しかし、この会の継続性が維持されるためには大変な努力を必要とするというのはうまでもありません。これまでもただでさえ忙しい社会人の方々に集まって頂きながら準備をしてきたわけですが、これからはもつと大変だと思えます。昨年の暮れから今年の1月にかけて実施したアンケートにより皆さんがいろいろなところで非常に活躍されていることがわかり、お互いに再び交流を深めることでいろいろなものが生み出されるだろうという期待ができる。と同時に、皆さんがこの会に非常に高い期待を寄せられていることもわかりました。

しかし、その要求の高さに比べ実際に企画立案してくださる方は非常に少なく、今頑張ってくださいという方には恐縮ですがいささか心もとなく思っております。ご入会くださった方は時にはお手もとにある名簿を活用されて、同期の中での旧交を温められるのみならずこの会の存続のため、実際に企画にたずさわってくださいとありがたく思います。この会が2年目以降どうなるかは皆さん次第なのです。

● 熱意と主体的努力にかかっている

この会に皆さんが期待することはいろいろ

だと思えます。そのいろいろな期待に沿うべく様々な方向性を持たせてこの会を存続させていきたいと思っておりますので、皆さんもご協力頂きたくよろしくお願い致します。重ねて強調するようですが、この回が有意義なものとして続いていくか否かは、私どもを含めた同窓会員の熱意と主体的な努力にかかっています。この会に参加頂いた方のうち、ある方は社会人であり、ある方は学生でありましょう。しかしその如何にかかわらず、こうしたセミナーに参加されるような方はきまつてその他にもいろいろなものに首を突っ込んでおられますし、社会人の方は忙しく、こうした会に関わることは気が重いかもしれません。

しかし、学生時代にセミナーに参加されて口角泡を飛ばして議論したり、そうした中で友情を培われたことを少しなりとも思い出して頂いて、そうした場をこの会の中で再現できるよう、時には手を貸して頂けないでしょうか。私事にて恐縮ですが、昨年年頭より準備をしてきました私も、この7月より海外にて生活をおくることになりました。再び日本に戻ってくるのは早くても2年後になります。この会が更に発展したかたちで存在し、いろいろな交流の場を生み出し続けていることを願っています。どうかよろしくお願致します。（発起人・吉原健吾）

同窓会員

荒井正敏、宇佐川純子、鈴木一、西尾林太郎、
 姫野信吉、棚田一明、長妻直樹、山田経三、
 秋葉隆、永松三千生、平田栄次、溝口幸三、
 横山正樹、足立智枝子、西村重夫、浜本なほ
 子、村田順子、山本陽茂、相澤秀夫、池平正
 治、大島健一、緒方房子、神山和也、川崎正
 三、川島由美、岸久美子、木宮順子、楠田恒
 雄、久保和美、桑原一雅、潜道隆、長尾實二、
 横尾俊彦、榎本讓治、逢坂範彦、岡本佳三、
 熊耳要一、佐京龍治、田村慶子、原田清朗、
 藤村知子、堀内美希、望月悦子、吉田永理子、
 若林広、青木憲代、畔地眞弓、安藤之裕、岩
 村沢也、田中高、西崎眞理子、笛木俊、星佳
 生子、馬渡一浩、牛嶋仁、小林一彦、島谷哲、
 中島由紀子、室岡鉄夫、吉川知子、吉野文雄、
 岡村慶子、片原栄一、斉藤大也、篠塚誠、土

国際学生セミナー同窓会へのお誘い

八王子の丘に登り、鬱蒼とした木立に囲ま
 れた環境の中で、国際学生セミナーに参加し
 て、夜遅くまで語り合った思い出。大学セミ
 ナー・ハウスでの体験を、自己成長の一つの
 拠り所に感じている方も多いはず。

一回だけの例外的経験にしまつては、
 あまりにももったいない。そんな素晴らしい
 内容を国際学生セミナーは含んでいたと思
 います。現代の大学教育に欠けている徹底した
 議論の場が、セミナー・ハウスにはあります。
 そして、学生として、社会人として、セミナー
 で得た知識や視点をいかに日常生活の中に生
 かしているか。ここに国際学生セミナーの
 真の成果がかかっていると思います。

また、国際学生セミナーで出会った友人の
 貴重さは言うまでもありません。問題意識が
 高くて、話の合う仲間たち。国際学生セミナー
 に惹かれる人には、曰く言いがたい共通の雰
 囲気があります。また会って話の続きをした
 い、そう思っても、きっかけがないと、なか

井二郎、松田美由紀、柳澤彰子、赤根谷達雄、
 浅見俊之、池村幸久、大野政義、小笠原高雪、
 門脇由里子、坂本一朗、島田和生、白石秀幸、
 中江新、西川隆尋、林園子、本間正人、前田
 昭彦、松井孝哉、佐藤明徳、中島朋義、平野
 貴昭、大野宏明、大橋秀雄、鍋田毅、長谷川
 竜、深瀬裕司、屋良朝彦、安孫子勇、伊藤美
 和子、神尾裕、佐々木智弘、篠崎隆、多賀谷
 周、中島由利恵、日下拓二、下條邦彦、古賀
 由希子、小嶋卓、須賀井文美、津村恵美、稗
 田聡、野吾美奈子、山本閉留巳、和田圭司、
 赤川愛、石原伸一、木下薫、草間静、小林玲
 子、小松原正浩、前川玲子、松島昇、山本あ
 ゆみ、池辺裕美子、鶴川孝、小原朋広、日下
 太一、小林篤子、杉本直子、土井ちはる、永
 野隆行、橋本剛、兵頭慎治、森秀勲、稲山雄
 陽、吉原健吾、網野真樹、飯田浩敬、稲山雄
 一、薄井典子、奥田一仁、兼盛克幸、岸道信、
 坂下雅一、坂本祥子、佐藤哲彰、佐藤智昭、

なか集まらないのが実情。そうこうするうち
 に、興奮は冷め、それつきりになってしまっ
 ている。そんなことも多いと思うのです。

同窓会をつくろう。同窓会をつくって、も
 う一度セミナー・ハウスに集い、それぞれの
 過去・現在・未来を交流しよう。そんな思い
 をもった仲間が発起人となって、同窓会をつ
 くる呼びかけを行いたいと思います。

現役の学生にとっては、先輩の社会人と出
 会うすばらしい機会。社会人にとっては、エ
 キサイティングな知的感動に再会できる、ま
 たとな機会になるはず。激動する世界
 情勢の中で、国際感覚をいつも鋭敏に磨き澄
 ませておくことが大切です。

セミナー・ハウスを、単なる想い出にして
 しまうのではなく、今も息づく現在進行形の
 体験にしようではありませんか。あなたのご
 参加を心からお待ちしています。

(文責・本間正人/第10回参加)

志賀裕朗、田島聡一郎、立花敏、田村豊、中
 村美紀、永田晶敬、増田行子、阿部晶子、泉
 恵理子、春日真人、小塚郁也、椎野幸平、島
 村直幸、武内明香、東郷育子、羽瀨博行、平
 田芳久、藤田秀行、吉田亜都子、吉田篤史、
 青木礼子、荒木美千子、岩橋研一、江口正浩、

小川健一郎、甲木智子、角野治美、加原奈穂
 子、岸本由紀子、木村正博、木本有美、久保
 昌央、倉田るり子、黒津純子、齋藤すみ子、
 関根牧子、玉川千絵子、日塔輝宜、林信之、
 本田奈穂、牧幸輝、水野直子、山田秀樹(93
 年6月現在。以上185名)



〔設立記念シンポジウムを終えて〕激変した周囲の環境に驚く20年ぶりに来訪された
 会員の姿も見られた——前列左4人目より渡辺、宇佐美、岡、広野の各氏

第80回理事会・第60回評議員会

93年4月1日/アルカディア市ヶ谷



第80回理事会・第60回評議員会 (93.4.1/アルカディア市ヶ谷)

〔出席者〕(理事) 中川秀恭、岡宏子、佐野博敏、村山松雄、鈴木皇、三宅彰、宇野重昭、(監事) 坂上信次、(評議員) 太田次郎、朝倉孝吉、望月清司、川原栄峰、井早康正、〔委任状による者〕理事11名、評議員61名
中川理事長が議長となり議事が進められた。岡専務理事から各議案について逐次提案説明があり、それぞれ質疑・審議の結果、いずれも可決承認された。

▽評議員人事に関する件
①協力会員校の学長交替に伴う一橋大学長阿部謹也、恵泉女学園短期大学長大山綱夫両氏の新任。塩野谷祐一、秋田稔両氏の退任。
②渡辺茂氏の逝去に伴う根岸完二(東京都立科

学術大学長の新任。
③高齢・健康上の理由による三井不動産相談役江戸英雄氏の退任。
▽平成5年度事業計画案及び収支予算案に関する件

収支予算(下掲)で施設管理費、固定資産取得支出が多額なのは、ユニット・ハウスの補修、同暖房器具の交換、国際セミナー館宿舍の冷房化等の諸工事による。このように施設設備の修理費等に莫大な費用を要するので、利用者増による収入を施設の再建計画に向けて資金を積み立てることができないのが現状である。
教育活動では大学教員懇談会から分かれた

大学教員研修プログラムで、大学と大学教員の魅力開発(FD)について熱心な討議が行なわれているが、これには国立大学への文部省補助金(大学教育方法等改善経費)の一部を充てて頂いている。国際学生セミナーの同窓会が平成5年度いよいよ発足。6月には設立総会を、1月には20回記念同窓会セミナーを開く。

第81回理事会・第61回評議員会

93年5月27日/大学セミナー・ハウス

〔出席者〕(理事) 中川秀恭、岡宏子、佐野博敏、鈴木皇、三宅彰、(評議員) 山住正巳、内藤正、川原栄峰、井早康正、古浜庄一(代理・門馬伯行)、〔委任状による者〕理事15名、評議員81名

中川理事長が議長となり議事が進められた。岡専務理事から各議案について逐次提案説明があり、それぞれ質疑・審議の結果、いずれも可決承認された。

表4 平成5年度一般会計収支予算書

(平成5年4月1日~平成6年3月31日)

(単位:円)

| 収入の部 | | 支出の部 | |
|-----------|-------------|-----------------|-------------|
| 科目 | 金額 | 科目 | 金額 |
| 基本財産運用収入 | 130,000 | 人件費 | 110,839,000 |
| 会員校会費収入 | 62,850,000 | 施設管理費 | 74,065,000 |
| 事業収入 | 240,559,000 | その他の管理費 | 26,190,000 |
| 施設改修協力金収入 | 12,000,000 | 一般事業費 | 24,743,000 |
| セミナー会費収入 | 5,088,000 | 普通セミナー事業費 | 43,682,000 |
| 補助金等収入 | 8,346,000 | 学生指導セミナー事業費 | 9,414,000 |
| 寄付金収入 | 870,000 | 国際セミナー事業費 | 4,219,000 |
| 雑収入 | 9,360,000 | 固定資産取得支出 | 38,857,000 |
| 繰入金収入 | 6,172,000 | 特定預金支出 | 400,000 |
| | | その他の支出 | 4,753,000 |
| | | 予備 | 8,213,000 |
| 当期収入合計(A) | 345,375,000 | 当期支出合計(C) | 345,375,000 |
| 前期繰越収支差額 | 53,916,000 | 当期収支差額(A)-(C) | 0 |
| 収入合計(B) | 399,291,000 | 次期繰越収支差額(B)-(C) | 53,916,000 |

表5 平成4年度一般会計収支計算書

(平成4年4月1日~平成5年3月31日)

(単位:円)

| 収入の部 | | 支出の部 | |
|-----------|-------------|-----------------|-------------|
| 科目 | 金額 | 科目 | 金額 |
| 基本財産運用収入 | 217,174 | 人件費 | 103,257,603 |
| 会員校会費収入 | 62,850,000 | 施設管理費 | 87,751,903 |
| 事業収入 | 239,766,901 | その他の管理費 | 31,037,005 |
| 施設改修協力金収入 | 11,292,250 | 一般事業費 | 36,388,143 |
| セミナー会費収入 | 3,837,184 | 普通セミナー事業費 | 38,731,376 |
| 補助金等収入 | 7,704,500 | 学生指導セミナー事業費 | 8,272,635 |
| 寄付金収入 | 1,459,239 | 国際セミナー事業費 | 3,741,697 |
| 雑収入 | 11,270,534 | 固定資産取得支出 | 39,082,040 |
| その他の収入 | 800,000 | 繰入金支出 | 6,779,181 |
| 繰入金収入 | 6,779,181 | | |
| 当期収入合計(A) | 345,976,963 | 当期支出合計(C) | 355,041,583 |
| 前期繰越収支差額 | 55,575,881 | 当期収支差額(A)-(C) | △9,064,620 |
| 収入合計(B) | 401,552,844 | 次期繰越収支差額(B)-(C) | 46,511,261 |

▽役員人事に関する件
協力会員校の総長・学長交替に伴う東京大学総長吉川弘之、一橋大学長阿部謹也、東京都立大学総長山住正己各氏の理事就任と一橋大学前学長塩野谷祐一氏の退任。

▽評議員人事に関する件
協力会員校の総長・学長交替に伴う東京大学総長吉川弘之、東京都立大学総長山住正己、日本女子大学長宮本美沙子、上智大学長大谷啓治、聖心女子大学長中川徹子、駒沢大学長阿部肇一、慶応義塾大学長鳥居泰彦各氏の新任と有馬朗人、佐野博敏、青木生子、土田将雄、内山孝子、平井俊栄、石川忠雄各氏の退任。

▽平成4年度事業報告案及び決算報告案に関する件
宿泊利用者は六万三、四八五人と開館以来の最多記録を更新し、二年連続六万人を超えた。しかし、支出面ではユニット・ハウスをはじめとする施設設備の修理、本館屋上防水や水源井戸の改修、本館クーリングタワーとグリーストラップの新設などの工事で、予算を大幅に上回る事となった(別掲「業務白

書」「教育プログラム白書」、下掲「収支計算書」参照。
なお、監事からは「平成4年度における会計及び業務とも適正に処理されている」旨の監査報告が寄せられた。

▽ハウスの施設の現状と将来計画に関する件
施設設備の傷み具合は年々加速化し、修理に莫大な費用を要するようになった。特に老朽化が著しい主要宿泊施設ユニット・ハウスのこれからの整備・維持の方策も、将来計画如何によつて当然異なってくる。ハウス活動の新たな展開を踏まえ、施設の総合的な計画を検討するために、理事長の諮問機関として「ハウス施設の将来計画に関する特別委員会」(略称「将来計画特別委員会」)を設置する。

平成4年度 第3回常務理事会

93年4月1日/アルカディア市ヶ谷

〔出席者〕(常務理事) 佐野博敏、鈴木皇、三宅彰、宇野重昭、(法人) 中川秀恭理事長、

岡宏子館長・専務理事
●主な議事
第80回理事会・第60回評議員会の議案・報告事項の確認、他。

平成5年度
第1回常務理事会

'93年4月27日／青学会館

〔出席者〕(常務理事)有馬朗人、佐野博敏、鈴木皇、三宅彰、宇野重昭、(法人)中川秀恭理事長、岡宏子館長・専務理事
●主な議事
ハウス施設の現状と将来計画(特別委員会の設置)について、他。

平成5年度
第2回常務理事会

'93年5月27日／大学セミナー・ハウス

〔出席者〕(常務理事)佐野博敏、鈴木皇、三宅彰、宇野重昭、(法人)中川秀恭理事長、岡宏子館長・専務理事
●主な議事
「将来計画特別委員会」の委員の選出について(委員は左記のとおり。50音順)
青木生子(日本女子大学前学長、前評議員)、宇野重昭(成蹊大学教授、常務理事)、佐野博敏(東京都立大学前総長、常務理事)、示村悦二郎(早稲田大学教授、運営委員)／大学教員懇談会企画委員会委員長、鈴木皇(学習院大学客員教授、常務理事)、中嶋嶺雄(東京外国語大学教授、評議員、運営委員)／国際プログラム委員会元委員長、野崎昭弘(大妻女子大学教授、共同セミナー委員会副委員長)、三宅彰(国際基督教大学教授、常務理事)の8氏。

平成4年度
第3回FDプログラム小委員会

'92年10月6日／青学会館

〔出席者〕絹川正吉、示村悦二郎、中島利誠、福田一郎、中田良平、嶺山道雄、亀山純生

〔ハウス側〕岡館長、企画室スタッフ2名
●主な議事
(1)新委員の就任／亀山純生氏(東京農工大学一般教育助教授・倫理学)、(2)第4回大学教員研修プログラムの実施報告、(3)教育方法等改善経費の収支予定の検討、(4)第5回大学教員研修プログラムの企画、(5)マニュアル編集委員会の設置、(6)大学教員研修プログラムのニュース記事の執筆、(7)平成5年度改善経費の担当校(東京農工大学に依頼)

第4回FDプログラム小委員会

'93年2月1日／青学会館

〔出席者〕絹川正吉、宮腰賢、示村悦二郎、原科幸彦、福田一郎、中田良平、原一雄、佐々木一也、亀山純生
〔ハウス側〕岡館長、企画室スタッフ2名
●主な議事

(1)第5回大学教員研修プログラムの実施報告、(2)平成5年度教育方法等改善経費の要求書、(3)マニュアルの出版について、(4)平成5年度宿舍・セミナー室の予約、(5)第6回大学教員研修プログラムの企画

第5回FDプログラム小委員会

'93年3月15日／青学会館

〔出席者〕絹川正吉、宮腰賢、示村悦二郎、中島利誠、福田一郎、中田良平、原一雄、佐々木一也
〔ハウス側〕岡館長、企画室スタッフ3名
●主な議事

(1)FDハンドブック(改訂版)の出版、(2)第6回大学教員研修プログラムの企画、(3)次年度の人事／坂井昭宏・原科幸彦・中島利誠の各委員には顧問として引き続き委員会にご協力をお願いすることになった。

平成4年度
第2回国際プログラム委員会

'93年3月8日／青学会館

〔出席者〕渡辺昭夫、宇佐美滋、添谷芳秀、高木誠一、寺西俊一、梶田孝道、古賀正則、中井和夫、佐藤英夫、樋口洋一郎、山本武彦
〔ハウス側〕岡館長、企画室スタッフ3名
●主な議事

(1)新委員の就任／山本武彦氏(早稲田大学政治経済学部教授、国際政治学)、(2)委員の退任／堀内伸介氏(国際開発高等教育機構専務理事)、(3)第19回国際学生セミナー「地球時代の生き方を求めて」国境は越えられるか」の実施報告、(4)「国際学生セミナー同窓会」の準備状況、(5)第20回国際学生セミナーの企画

平成4年度
第3回共同セミナー委員会

'93年3月11日／青学会館

〔出席者〕川端香男里、桜井哲夫、野崎昭弘、栗原彬、坂本百大、佐藤敬三、進藤栄一、間宮陽介、中村桂子、宇波彰
〔ハウス側〕岡館長、企画室スタッフ3名
●主な議事

(1)第19回大学共同セミナー「教と論理のファンタジア」の実施報告、(2)第16回大学共同セミナー「身体運用の妙を探る」日本の動法の世界」の実施報告、(3)第12回大学院共同セミナー「心理療法における事例検討」の準備状況、(4)平成4年度教育プログラムの総括、(5)第13回大学院共同セミナーの企画、(6)平成5年度教育プログラムの年間計画

平成4年度
第2回大学教員懇談会企画委員会

'93年3月15日／青学会館

〔出席者〕示村悦二郎、宮腰賢、岡村浩、高倉翔、福田一郎、石黒哲郎、高橋たまき、建部正義、戸張よし子、安岡高志、吉野輝雄、

池内輝雄、村上陽一郎
〔ハウス側〕岡館長、企画室スタッフ3名
●主な議事
(1)第29回大学教員懇談会「動き出したか？大学改革」の実施報告、(2)FDプログラム小委員会の活動、(3)第30回大学教員懇談会の企画

平成5年度
第1回共同セミナー委員会

'93年6月7日／青学会館

〔出席者〕川端香男里、坂本百大、佐藤敬三、野崎昭弘、間宮陽介、宇波彰、菊地京子、柴坂寿子、島蘭進、伊東孝之、佐伯胖、富山太佳夫、松井孝典
〔ハウス側〕岡宏子館長、企画室スタッフ2名
●主な議事

(1)新委員の就任(14頁参照)、(2)正副委員長の出選／委員長には川端香男里氏、副委員長には桜井哲夫氏と野崎昭弘氏が再任、(3)平成4年度教育プログラムの総括、(4)第12回大学院共同セミナー「心理療法における事例検討」の実施報告、(5)第16回大学共同セミナー「会社」とは何か」の準備状況、(6)第18回大学共同セミナー「ゆらぎの科学(仮題)」の準備状況、(7)平成5年度第163回大学共同セミナーの企画、(8)平成6年度第13回大学院共同セミナーの企画、(9)平成6年度第164回以降のセミナー企画、「ペイトソンを読む」、「生命科学」、「地球と人口問題」などの企画案をめぐって協議

平成5年度
第1回国際プログラム委員会

'93年6月8日／青学会館

〔出席者〕渡辺昭夫、宇佐美滋、今井圭子、添谷芳秀、高木誠一、中井和夫
〔ハウス側〕岡宏子館長、企画室スタッフ2名
●主な議事

(1)第20回国際学生セミナー「地球時代の生き方を求めて」変わりつつある世界秩序と

日本」の準備状況、(2) 国際学生セミナー同窓会、設立総会の実施報告、(3) 第20回国際学生セミナーの留学生募集、(4) 第20回記念セミナーの準備状況、(5) 新シリーズの企画、(6) 新規プログラムの開発

平成5年度 第1回大学教員懇談会企画委員会

93年6月22日/青学会館

【出席者】 示村悦一郎、宮腰賢、小池生夫、嶺山道雄、岡村浩、中田良平、福田一郎、前沢三郎、石黒哲郎、西脇威夫、平野健一郎、安岡高志、中西又三、八杉貞雄

●主な議事 (1) 新委員の就任/八杉貞雄(東京都立大学教授・発生物学)、(2) 第30回大学教員懇談会「いま、大学の理念を問う」の準備状況、(3) 第6回大学教員研修プログラム、学生と共に授業を創る」の準備状況、(4) 参加対象と参加経費の改訂、(5) 参加教員の募集、(6) 第21回から第30回までの大学教員懇談会記録の編纂出版

平成5年度 共同セミナー委員

＜委員長＞ 川端香男里 東京大学教授(ロシア文学)

＜副委員長＞ 桜井哲夫 東京経済大学教授(理論社会学) 野崎昭弘 大妻女子大学教授(数学)

坂本百大 青山学院大学教授(哲学) 佐藤敬三 埼玉大学教授(科学論) 西村圭子 日本女子大学教授(日本史) 池田清彦 山梨大学教授(生物) 福井憲彦 学習院大学教授(西洋史) 間宮陽介 京都大学助教授(経済学) 宇波 彰 明治学院大学教授(記号学・現代思想)

菊地京子 津田塾大学助教授(社会人類学) 柴坂寿子

千人会 '93年3月~8月

お茶の水女子大学講師(人間行動学) 島蘭 進 東京大学助教授(宗教学) ○伊東孝之 早稲田大学教授(比較政治学) ○江原由美子 東京都立大学助教授(社会学・女性論) ○草野 厚 慶応義塾大学教授(国際関係) ○佐伯 胖 東京大学助教授(教育方法学) ○富山太佳夫 名城大学助教授(英文学) ○松井孝典 東京大学助教授(比較惑星学)

◆現在会員一、四五四名(実会員数) ◆新しく会員となられた方々

- A 成長科学協会 C 江崎グリコ C 江崎グリコ C 江崎グリコ A 大妻女子大学教授 A 日本女子大学教授 C 住友銀行 C 当セミナー・ハウス元職員 C ミュンヘン大学博士課程 C 本田技研工業 B 浜松市役所 A 東京都立大学名誉教授

◆会費ありがとうございます

- 笠 耐、増澤利幸、中村妙子、三神勲、彦由一太、泉敏彦、拓植敏治、磯直道、若林玄修、馬越徹、西川恭治、門脇卓爾、谷口汎邦、林潔、渡辺忠胤、安藤英治、宮腰賢、朝倉弘之、永野賢、寺中仁二、梅村魁、高橋誠、佐藤百世、人見宏、絹川正吉、白川和雄、一松信、永島孝、山科高康、折田政博、磯田浩、島美喜子、平野由紀子、斎藤幸一郎、原一雄、河田喬夫、壽里茂、長谷川至弘、渡辺武雄、麻島昭一、谷重雄、大西清、平山美枝子、佐藤毅、島田治夫、柴田泰比古、百瀬宏、望月清司、森山ヨシ子、菊地昌典、鎮目和夫、肥前栄一、土井恵美子、小原啓義、平澤薫、福田

- 一郎、有賀弘、市川邦彦、大頭仁、豊田陽子、吉田宏哲、福西基、小倉芳彦、藤本宏幸、高瀬文志郎、西村閑也、河村フジ子、大田末穂、佐藤公孝、茂木光子、手塚喬介、丸山真男、佐藤玉枝、大原栄一、大河内正陽、中良義郎、野野万里、桜井育子、尾田綾子、池原幸、石渡敬、春田素夫、吉沢四郎、佐藤慶幸、田中喜久昭、友部直、岡村総吾、萩原稔、渡利千波、館逸雄、松澤通生、富塚文太郎、木村敏美、池田義人、井出翁、村山松雄、林邦夫、向坊隆、松崎義徳、熊坂敦子、室本誠一、木村建一、久保田浩、木田宏、梶原豊、石弘光、福島重美、染谷恭次郎、関根隆光、塩田庄兵衛、高峯一愚、矢野洋四朗、井上繁、碓井信一、浅見千鶴子、小山五郎、斎藤芳郎、藤井弥太郎、大友浩、堀野定雄、安藤賢一、仁科雄一郎、林肇、村田全、海老根宏、堤彪、鈴木達雄、伊藤憲智郎、吉利喜美、佐伯彰一、下出積興、佐藤和男、江淵浩美、高木健太郎、水野弘文、横山勝信、水谷真智子、井早康正、伊倉退蔵、奥野忠一、小原清成、青木清明、太田正孝、塩谷淳子、原治、向山文雄、清水昭次、竹井恒子、加藤秀俊、矢澤修次郎、北野弘久、芳野超夫、井上宇市、細谷千博、中島康孝、下森定、阿部弘、板橋定雄、佐藤弦、近藤正夫、正田亘、山之内靖、荒井献、長谷川幸男、後藤捨男、富山芳正、中津信子、加藤一郎、芳賀徹、柏原啓一、峰岸純夫、逸見謙三、加藤晴久、國分久子、山澤逸平、竹内昭夫、滋賀秀三、内田祥哉、岡田英和、今井榮、矢澤大二、狩野紀昭、今井義夫、内田市大塚久雄、村田勝彦、山下肇、角田稔、勝田有恒、桐生富久、椿弘次、大村晴雄、中川作一、川名明、川崎節生、千野熊男、徳未愛子、西澤宗英、福島明、山本幹夫、堀部政男、高橋忠次郎、北都子、片桐元、荒川有史、伊藤喜栄、村瀬晃、関口富左、奥山生本、本明寛、井村光世、秋岡実、深海博明、朝野洋一、土田美芳、鈴木二郎、三浦徳弘、近藤裕、西成典子、中山昌、佐藤進、長岩寛、小島守生、古畑和孝、合田周平、福田延衛、竹内喜代司、柴田勇造、宮川彰、和田英一、島田淳子、西川治、北野美枝子、二谷貞夫、武者利光、阿久津喜弘、児玉昭太郎、松平文明、江沢洋、望月継治、岡田正弘、高山旭、嶺哲之助、柳下勇、森川八洲男、川添利幸、佐久間まゆみ、

平成4年度千人会会計収支計算書 (平成4年4月1日より平成5年3月31日まで) (単位:円)

| 収入の部 | | 支出の部 | |
|-----------|------------|-----------------|------------|
| 科目 | 金額 | 科目 | 金額 |
| 会費収入 | 3,839,000 | 印刷製本費 | 182,928 |
| 雑収入 | 273,533 | 通信運搬費 | 650,559 |
| | | 払込手数料 | 44,530 |
| | | 雑費 | 3,605 |
| 当期収入合計(A) | 4,112,533 | 当期支出合計(C) | 881,622 |
| 前期繰越収支差額 | 7,620,674 | 当期収支差額(A)-(C) | 3,230,911 |
| 収入合計(B) | 11,733,207 | 次期繰越収支差額(B)-(C) | 10,851,585 |

- 吉田幸弘、飯田恵、島海俊宏、片岡清子、見田宗介、相沢忠一、秀村欣二、白井久和、大内力、名東孝二、中野スミ子、川田侃、石川信男、伏見康治、金子晃、早坂泰次郎、栗林恒雄、高橋勇悦、安宅光雄、詫摩武俊、扇谷尚、小倉充夫、今堀和友、榑吉彦、石井脩二、猪瀬尚志、阿部斉、原田富士雄、日隈永治、福山直美、吉松藤子、中村修、小林玲子、木村敦、渡辺芳彦、田島信元、林泰造、中村幸安、長清子、三橋文雄、中嶋嶺雄、山西貞、中村哲哉、厚東偉介、中村浩三、慶谷伸代、栗原尚子、松尾秀雄、岡宏子、藤原鎮男、長浜洋一、中村登志哉、金谷憲、千住鎮雄、小池滋、松島恵、藤平重雄、小林宏農、井上信子、田島恵児、和田義信、黒田道雄、柴田政利、朝日信夫、篠沢秀夫、永井裕、築田長世、橋谷卓成、立川明、西村敏男、中村進、古本捷治、佐野博敏、村瀬興雄、柏木恵子、岡沢憲美、橋本智、窪田富男、山代昌希、宮本瑞夫、布施壽雄、梅沢豊、川原啓美、山口重児、讚岐和家、鈴木務、米村貞蔵、笹森健、内山尚三、色川大吉、石井進、小川信子、吉田美穂子、入江和生、進藤トク、黒田成俊、角瀬保雄、小池生夫、橋本研一、千羽喜代子、井上孝、太田善磨、中島文夫、五十嵐香、鈴木成文、伊藤清子、奥田夏子、滝幸三郎、原誠、新井勝敏、仙田哲、林明夫、柴田誠、中山光雄、石井竹松、品川孝次、村松映、五十嵐武士、大野澄子、杉浦一代、岡本剛、萩原洋太

おたより

郎、志賀英、三和治、辻達也、浅井邦二、原島幸太郎、伊東一江、稲田拓、伊藤一郎、村田光二、森田明、白濱謙一、加藤栄一、古関彰一、小西悟、山本武彦、関田寛雄、大福族生、鶴野省三、八幡義博、金子六郎、市川博、鹿島健次、長内了、平出彦仁、岡村文子、宮野三郎、中西又三、本間正人、田中未来、原田行男、鈴木一道、野沢浩、国岡昭夫、山本茂、松村信治郎、松瀬貞規、米山弘、有末賢、下田弘 (敬称略)

●健康であることがどんなにすばらしいことを強く感じた一年でした。専修大学教授・**柘植敏治** ●創価大学通教生として六ヶ年在学し、本年三月で修了しました。生涯学習の道を今後も体験致してまいりたいと存じます。(朝倉弘之) ●昨年十月落命寸前の転倒事故。後遺症に悩んでいます。(成蹊大学名誉教授・安藤英治) ●先日ハウスを訪ねてきました。(東洋大学教授・白川和雄) ●放送大中整ゼミの記念樹の成長が楽しみです。還暦を迎え小生は日刊工業を退職後に浪人をへて、発明協会に再就職しています。(長谷川弘至) ●一昨年大病をいたしました。おかげで回復しました。(一橋大学教授・佐藤敦) ●マックスヴェーバー『ロシア革命論』研究会でいつも利用させていただいています。(東京大学教授・肥前栄一) ●最近『コメ食の民族誌』(中公新書)を出しました。図書館に入れて下さい。(東京女子大学教授・福田一郎) ●八十三歳、左右両脳二刀流で研究活動を続けています。(東京教育大学名誉教授・平澤薫) ●今夏八月下旬コーラスグループの研修に利用させて頂けることになりました。(国立音楽大学教授・佐藤孝孝) ●還暦を迎えました。新たな気持ちでいましばらく頑張るつもりです。(早稲田大学教授・佐藤慶幸) ●四月中に絵を画きに参上します。(井出翁) ●今年を重なるにつれて偉い方の実相をよみとれるようになり心ふくらむ思いをしております。(日本女子大学教授・熊坂敦子) ●今おります大学も本年度一杯で退職する予定です。

す。縛られずに自由になれますことを念じております。(聖徳大学教授・浅見千鶴子) ●笈を負ひて先づ訪ふ丘の桜かな 離業(日本カント協会委員長・高峯一愚) ●明年三月に定年退職します。今年が私にとつて最後の学年となります。すでに四十六年勤めました。(早稲田大学教授・染谷恭次郎) ●暇をみてハウスに伺いたく存じます。(桃山学院大学特任教授・村田全) ●小生この春で、中大を定年退職。どうも一層ご無沙汰続きになりそうです。あしからず安息のほどを。(佐伯彰一) ●三月下旬〜四月中旬にロンドン、ワルシャワ、ウィーンを回って学術調査を行いました。(青山学院大学教授・佐藤和男) ●ときおり二十年前の大学教員懇談会のことなど思い出します。(横浜国立大学名誉教授・板倉退蔵) ●仕事から離れ頭身の衰えが来ないよう自分なりの工夫を凝らしながら暮らすように心掛けて居ります。(法政大学名誉教授・横山勝信) ●会費が未納を確認し愕然といたしました。遅れにおかけさまで順調でございます。「都カレ」おかげさまで順調でございます。(都民カレッジ主任教授・秋間実) ●いつもニュースのしく拝見しています。創立以来の歩みなつかしく昔を思い出しています。(中山昌) ●ハウスの近くに勤めながら、心ならずもご無沙汰しております。一度ゼミの合宿でもさせていただければと願っております。(帝京大学教授・古畑和孝) ●本務の他に、付属幼稚園長、家政学会副会長などの雑用が増え、とても大変ですが元気で還暦を迎えられたことを感謝して、Aランクにさせて頂きました。(お茶の水女子大学教授・島田淳子) ●上越高田で八年目を迎えました。環日本海東アジア世界の国際化に共生の要石です。(上越教育大学教授・二谷貞夫) ●私共の会は、故上代タノ先生が二十九年前につくられました。(日本女子大学図書館友の会常任理事・北野美枝子) ●松木塚鳴き続けてよ上げ雲雀(東京都立大学教授・児玉昭太郎) ●ころんで右膝を骨折した他は元気で今年の誕生日を迎えました。(東京都立川短期大学名誉教授・吉田幸弘) ●マグノリアの木をよろしく。(東京大学教授・見田宗介) ●五十年間の教員生活を勤めあげフリーになりました。福田先生という最適の後任学長が与え

られましたこと喜んでいきます。(東洋英和女学院短大前学長・東京大学名誉教授・秀村欣二) ●退職して三年目、勤めは週三回とし、地元では地域福祉のために民生委員として、我家では初孫の子守役として、元気で六十三歳の誕生日を迎えております。(東京医科歯科大学医科同窓会サービスセンター・栗林恒雄) ●七月七日より三ヶ月の予定で中国へ技術指導に出かけました。(中村技術士事務所・中村哲哉) ●丹頂鶴の美しい切手も岡先生のお心がこめられているように思われます。(お茶の水女子大学名誉教授・山西貞) ●ベルリン時代の恩師の翻訳書をこの春出版することができ、やつと宿題をやり終えた気分です。精神的にもわずかにゆとりができ、いづれの機会にセミナー・ハウスを再訪したいと考えています。(共同通信社・中村登志哉) ●今年わたくしは古稀とともに「学徒出陣」五十周年を迎え感慨無量です。(田島恵児) ●昨年は大腸ポリープ除去の手術で三ヶ月休みました(学習院大学教授・篠沢秀夫) ●キリスト教学(ヴォランティア)・四単位を、六十時間以上ヴォランティア・ワークを行ない、大学セミナー・ハウスでの合宿に年三回参加した学生に与えるようになり三年たちました。日本では初めての試みのようです。(桜美林大学・布施澤雄) ●一昨年二月より札幌大学学長に就任致し住居は札幌が中心となりしております。(内山尚三) ●還暦を迎えて元気にしております。ハウスには二十六年間お世話になっております。(慶応義塾大学教授・小池生夫) ●来年三月定年を迎えます。学生部長時代各科のオリエンテーションに一泊ずつのセミナー・ハウス生活を体験させた経験が忘れられません。息子も年輪の会の会員でお世話になりました。(跡見学園女子大学教授・橋本研一) ●定年まであと二年半。それまでの日本から脱出しますかどうか。早くこのいやな日本から脱出したい気持ちでいっぱいです。(東京外国語大学教授・原誠) ●八月七日お陰様で七十歳になりました。一つの区切として年会費に若干プラスした分を送金させて頂きます。(原島幸太郎)

寄贈図書

93年3月〜8月

- 『コメ食の民族誌』 福田一郎殿
- 『財政の経済理論』 『安然の非情成仏義研究』 学習院大学殿
- 『意思決定支援システム』 『コンビユータと情報処理』 広内哲夫殿
- 『外国人労働者迎え入れの論理』 宮島 喬殿
- 『商家の世界・裏店の世界』 リプロポト殿
- 『法人資本主義』 朝日新聞社殿
- 『会社本位主義は崩れるか』 岩波書店殿
- 『現代日本経済史』 有斐閣殿
- 『天平の望郷歌』 他 中津竹子殿
- 『ヌキのいない旅』 『ジオルシヤゴル』 大同生命国際文化基金殿
- 『じゃあね』 の人 野萩青少年育成財団殿
- 『チョウノスケソウの夢』 今泉忠芳殿

寄付

93年3月〜8月

- ＜一般寄付金＞
- 一〇、一五〇円 学習院大学法学部政治学科 フレッシュマンセミナー93年殿 / 四、〇〇〇円 東京理科大学比較文化研究セミナー殿 / 一〇、〇〇〇円 東京理科大学大澤網一郎ゼミ殿
- ＜植樹＞
- みつばつじい生活協同組合コープとうきょう93年度新入社員殿 / みつばつじい成蹊大学宇野ゼミ殿 / 枝垂れ桜 市光工業(株) 人材開発部教育課殿 / はなみずき(赤) 一株 / 十文字学園女子短期大学家政学科生活学専攻殿 / はなみずき(白) 一株 / 専修大学麻島ゼミナール殿 / 枝垂れ桜(株) 東芝デザインセンター人材開発グループ殿
- ＜現物＞
- こいのぼり一式 ハウス臨時職員小俣光國殿

業／務／通／信

'93年春3・4・5月

夏6・7・8月の合宿研修から

'93の春から夏、この半年間に繰り広げられた多様な合宿。そこでの出会いと交流の模様を、利用者諸氏から寄せられた「わたしたちの合宿」私の国際交流」各2編、感想文、写真等によりお届けしたい。ちなみに、この6ヵ月間の宿泊利用者は五一〇グループ、計三万五、六二四人。宿舎の稼働率にして63%だった。

●春は連日のフレッシュマン合宿

新入生オリエンテーションの季節は4月から7月。そのピークはやはり4、5両月で、学部または学科の大型合宿が連日のように展開された。右の4ヵ月間の実施状況は別表(18頁)のとおりで、31校からの60グループ、参加者は延べ計九、八七一人(うち、教職員七九七人、上級生八二一人)だった。これは同じ期間の宿泊利用者総計の42%に相当する。

本号の「わたしたちの合宿」その1(20頁)には、中央大学独文専攻の新入生オリエンテーションにご登場願った。

当ハウスでの実施は昨年に続いて2回目であるが、新入生・上級生・教師が一体となって合宿の効果を上げているグループの一つである。その魅力あるプログラム作りの一端を、その運営の衝に当たられた野口薫先生にご紹介いただいた。

なお、各大学のおおぜいの新入生から

いずれも心のこもった感想文が寄せられている。紙面の都合でその中の11編を掲載させていただいた(「フレッシュマン合宿に想う」18〜19頁)。

●夏は多彩な国際交流の諸集会

'93年の夏も盛んな国際交流が展開された。そのうち当ハウスで初めて開催された三つの集會にスポットを当ててみたい。

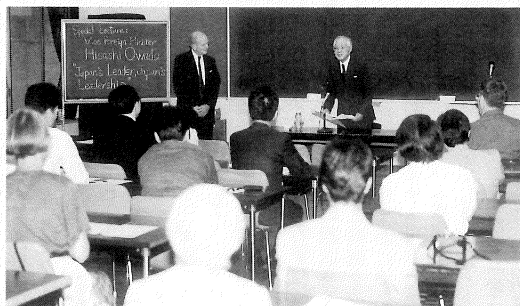
①微生物と植物のチトクロームP450に関する国際シンポジウムでは14カ国から

参加した約150名が、6月13〜17日の5日間、活気溢れる研究発表と討論を行なった。特別に設営された講堂(22頁に写真)が主会場。隣接の大学院セミナー館はポスター・セッションのための展示室となつた。また、食堂ではバンケットも行なわれ、各国の参加者たちは地元有志の演ずる勇壮な和太鼓などを楽しんだ。このシンポジウムは一昨年ベルリンで開催された第1回に続いて今回が2回目。日本では初の試みとのことだが、緑に囲まれたこの丘での起居を共にする合宿方式が参加者同士の相互理解と情報交換の促進に寄与したとの声を聞くことができた。

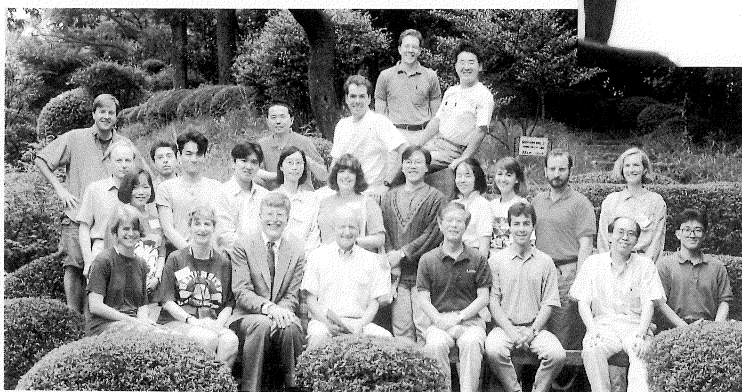
これを当ハウスに誘致されたのは、高木正道(東大農学部)、大川秀郎(神戸大農学部)、吉田雄三(武庫川女子大薬学部)の各教授ら。ここ十余年、それも毎年当ハウスの新春第1週末に必ずP450研究者5〜6名が合宿を続けてこられたが、今回その準備実行の任に当たられた吉田雄三教授もおひとりである。こ

北太平洋圏若手研究者研究交流ワークショップ '93. 7. 18~24 North Pacific Summer Workshop (NPSW)

小人数グループで討論する各国の若手研究者たち (記念館Bセミナー室)



「日本のリーダー、日本のリーダーシップ」について特別講義された小和田恒外務事務次官 (大学院セミナー館)



「北太平洋圏におけるリーダーシップのあり方」を討議、交流した参加者たち。前列に、ハウスにご縁の平野健一郎 (右から4人目)、木村昌人 (同2人目) 両氏ら (ようこそ広場)

Serene and lush surroundings

The International Lodge was very comfortable, clean, and convenient. I appreciate all the care that was taken by the staff to make us comfortable.

The dining hall staff was also very eager to find substitute meals for me (a vegetarian) when meat was served. I understand that with so many people eating at each meal, it is difficult to offer choices—but the staff was very helpful in accommodating to my dietary needs.

The most impressive aspect of "Plain living" was the serene and lush surroundings. I very much enjoyed early morning walks among the many flowering trees and carefully tended garden paths.

Alan Wachman, Educator (U. S. A.)

の国際集会の顛末を（私の国際交流―その2）（22頁）でご報告いただいた。

②北太平洋圏若手研究者研究交流ワークショップは7月18日から7日間開催され、7カ国からの34名が参加した。「冷戦後の平和で安定した国際関係を建設するための知的・人的ネットワークの形成」がその趣旨で、今回は同地域におけるリーダーシップのあり方がテーマ。主として小グループに分かれての討論を行った。この国際集會も、やはり長年当ハウスと関わりをもたれている平野健一郎東大教授、木村昌人関東学園大助教授らが実行委員であられたことで、当ハウスでの開催が実現したものである（16頁に写真と感想文）。

③海外技術研修員合同日本語研修では6月1～30日、東南アジア・中南米諸国10カ国の22名が長期セミナー館に滞在した。日本政府の途上国援助（ODA）の一環として招聘された研修員たちで、青森・茨城・三重の3県での専門別体験学習に配属される前の1ヵ月、国際交流サービズ協会のお世話により合同の日本語訓練を受けた。その間、当ハウスの在泊者との交流や、遠来荘での茶道体験などを楽しんだ（下掲）。

●健在なり、ゼミナールや大学間交流

春の新生オリエンテーションや夏休み特有の全国的・国際的集會が華やかに展開される中、地道にそして熱心に続けられているゼミナールや大学間交流の合宿など当ハウスの「主流」の存在を忘れ

ることはできない。本号では、その中の2つをご紹介します。

①明治大学農村社会学研究室の合宿は農業経済学科長谷川昭彦教授により、当ハウスが開館して4年後の'69年以来続けられ、今回で11回を数える。その間、参加学生は増えず、今回も6名だった。農業から離れる若者、コメの不作や市場の部分開放などに象徴される日本農村の苦悩は同研究室の苦悩でもある。だが、混沌たる現代社会の原点を解明する学問として農村社会学を守らねばならない。わが研究室、この合宿は、そのための「最後の砦」です——静かにそう話される長谷川先生から一文をお寄せいただいた（わたしたちの合宿―その2）23頁）。

②国際経済商学学生協会はフランス語名の頭文字アイセック（AIESEC）の通称で知られる学生団体である。当ハウスも開館当初から国際会議を含む同協会の活動に場を提供しており、アイセックとのご縁は長い。春休みに3泊4日で開催された全国代表者会議（NLDS）には全国の加盟27大学からの約200名が、実に見事な自主運営ぶりを見せてくれた。そして、そこには、異文化間の交流に必要な条件である「誠意あり責任ある行動」を、合宿の共同生活の中で実験しよう、という実行委員の呼びかけがあったことを知った。そのホスト役を務めた磐本優さんの感想文をご覧ください（私の国際交流―その1）21頁）。



茶道の手ほどきを受けるブラジルのクラウジアさん（遠来荘）

海外技術研修員合同日本語基礎研修

'93. 6. 1～30

東南アジア・中南米諸国10カ国からの22名が滞日研修を前に1ヵ月の合宿

人との付き合いを大切にしているセミナー・ハウス

大学セミナー・ハウスは、とてもいい所です。風景は素晴らしいし、どこを歩いても緑や鳥の鳴き声が聞かれ、夜は星が見られて、このような自然な場所は少ないと思います。

この一ヵ月、大学セミナー・ハウスで生活をして、とてもうれしかった



明日は青森、茨城、三重3県に出発。勢揃いする各国の研修員たち（国際セミナー館入口）

です。いろいろな国の人と、勉強をしながら友達になれる機会はあまりないですから、よかったです。最初はちょっと田舎だなあと感じましたが、今は大学セミナー・ハウスは頭や体を休められて、他の人と付き合えるのを大切にしている所だと思います。

ここでは、日本語の勉強だけ教えられるのではなく、自然を守ることや、友達を作ることを教えてもらいました。IUSHの皆様は、私たちに親切にしてくださいまして、心から感謝しています。私たちは、ここで過ごした事は決して忘れません。いろいろお世話になりまして、どうもありがとうございました!!（原文のまま）

コサカ ノミエ カリーナ
（アルゼンチン）

フレッシュマン合宿に想う



●合宿から一週間以上がたちました。今思えば、あの合宿があったことで、ただ単に「顔みしり」の友達だけではなく、話せる友達が増えたように思います。又、チューターの先輩達や、普段は雲の上の存在の教授の方々にアドバイスやためになるお話をたくさん伺うことができ、いい経験をしたなあ、と思います。今後もこのようなイベントを開き、ますます政治学科の団結が強くなるというなあと思います。

(学習院大学政治学科・石井静子)

●セミナー・ハウスでの交歓会では、幾つかの驚きがありました。まず、セミナー・ハウス内の自然の多さ。たくさん木とおいしい空気に、心が和みました。そして、建物の造り。先生方の意外な一面。おとなしいと思っていた友達が実はうるさかったりなど。どれも新鮮でした。短い期間でしたが、とても充実した時を過ごすことができました。会を開いて下さった先輩、先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。

(十文字学園女子短大・大越弓子)

●こんなにいいところでみんなと一緒に合宿できると思わなかった。ほんとうに楽しかった。東京で一週間以上住んでい

平成5年4月～7月
新入生オリエンテーション合宿実施状況

| 学 校 名 ・ 学 科 名 | 参加人数 (人) | | |
|-------------------------|-----------------|-------|-------|
| ● 4 月 (27グループ) | | | |
| 東京薬科大学 (新入生歓迎キャン) | *217 | | <97> |
| 立教大学・フランス文学科 | 72 | (12) | < 6> |
| 共栄学園短期大学・生活学科 | 280 | (27) | |
| 共栄学園短期大学・英語学科 | 197 | (15) | < 8> |
| 東京純心女子短期大学・音楽、美術、英語科 | 252 | (27) | <10> |
| 東京工芸大学・光工学科 | 145 | (22) | |
| 中央大学・独文専攻 | 128 | (11) | <24> |
| 学習院大学・政治学科 | 327 | (11) | <42> |
| 日本医学技術専門学校 | 62 | (10) | |
| 東京都立大学・精密機械学科 | 58 | (8) | < 4> |
| 東京都立大学・機械工学科 | 48 | (8) | |
| 東京学芸大学・幼児教育学科 | 30 | (5) | < 2> |
| 港湾職業能力開発短期大学校 | 34 | (5) | < 7> |
| 東京職業能力開発短期大学校 | 98 | (11) | |
| 日本女子大学・社会福祉学科 | 94 | (13) | |
| 東京会計法律学園 | *270 | (11) | |
| 中央大学・教育学コース | 52 | (8) | <10> |
| 東京都立大学・工業化学科 | 83 | (19) | < 4> |
| 東京電機大学・情報科学科 | 148 | (15) | <29> |
| 十文字学園女子短期大学・生活学専攻 | 260 | (11) | <127> |
| 東京都立商科短期大学・経営学科II部 | 125 | (13) | <34> |
| 慶応義塾大学・国際センター (留学生) | 100 | (11) | <49> |
| 立教大学・ドイツ文学科 | 83 | (7) | < 2> |
| 東京都立医療技術短期大学 | 303 | (51) | |
| 東海大学・西洋史学科 | 62 | (4) | < 5> |
| 大妻女子大学・児童学科 | 133 | (14) | |
| 武蔵工業大学・電子通信工学科 | 215 | (21) | <23> |
| ● 5 月 (28グループ) | | | |
| 東京会計法律学園 | *245 | (5) | |
| 東京会計法律学園 | *217 | (5) | |
| 津田塾大学・英文学科 | 271 | (19) | <22> |
| 東京学芸大学・数学教室 | 126 | (8) | |
| 東京都立商科短期大学・商学科II部 | 145 | (15) | <32> |
| 東京都立立川短期大学・生活、食物栄養学科 | 168 | (24) | <49> |
| 東京都立商科短期大学・商学科 | 276 | (22) | <39> |
| 東京都立大学・電気工学、電子・情報工学科 | 92 | (15) | < 4> |
| 武蔵野外語専門学校 | 46 | (12) | |
| 埼玉大学・電気電子工学科 | 83 | (8) | |
| 東京学芸大学・生物学教室 | 34 | (4) | < 2> |
| 東京学芸大学・地学教室 | 34 | (4) | < 4> |
| 東京学芸大学・物理学教室 | 32 | (3) | < 3> |
| 東京学芸大学・化学教室 | 30 | (4) | < 3> |
| 東京学芸大学・理科教育学教室 | 12 | (2) | < 2> |
| 明治学院大学・第II部社会学科 | 106 | (12) | < 8> |
| 東京会計法律学園 | *147 | (4) | |
| 文教大学女子短期大学部・英語英文科 | *284 | (28) | |
| 東京学芸大学・文化財科学教室 | 23 | (2) | < 2> |
| 東京学芸大学・自然環境科学教室 | 53 | (7) | < 5> |
| 東京学芸大学・教育情報科学教室 | 46 | (4) | < 3> |
| 日本女子大学・教育学科 | 52 | (7) | < 2> |
| 東京会計法律学園 | *263 | (5) | |
| 白梅学園短期大学・保育科 | *227 | (18) | |
| 東京都立大学・物理学科 | 53 | (6) | <12> |
| 東京都立大学・数学科 | 79 | (17) | <23> |
| 東京都立大学・化学科 | 80 | (5) | <24> |
| 東京学芸大学・心理臨床専攻 | 35 | (3) | < 2> |
| ● 6 月 (2グループ) | | | |
| 大妻女子大学短期大学部・実務英語科 | 176 | (11) | |
| 東京都立大学・建築学科 | 72 | (20) | |
| ● 7 月 (3グループ) | | | |
| お茶の水女子大学・文教育学部 (11学科) | 269 | (22) | |
| お茶の水女子大学・理、生活科学部 (11学科) | 316 | (24) | |
| 芝浦工業大学・環境システム学科 | 55 | (4) | |
| 計 60グループ (31校) | 実人数 8,023 (719) | <724> | |
| | 延人数 9,871 (797) | <821> | |

(注) 参加者数の ()内は教職員、< >内は上級生で、ともに内数。
*は2泊、他は1泊、実施順。

●たった二日間という短かい時間の中で、私達は様々な貴重な体験をした。一

(慶応義塾大学・舒 偉静 中国)

で、身のまわりがコンクリート建物ばかりで、自分も日本語を勉強、大学受験勉強ばかりしてあまり楽しいことがなかった。こんど、はじめて日本人の学生と一緒に話したり、山道をのぼったり、スポーツをしたりして、緑の環境の中に入って自然に帰ったような気がした。(原文のまま)

●多くの自然に囲まれたセミナー・ハウスでの合宿では、同じクラスでありなが

(東京都立医療技術短期大学・土藤綾子)

ら話したことのない人と、交流を深めることができました。分散ミーティングでは、教授にお話を伺うために暗い中を遠く離れたセミナー室に向わなければならず、ちょっとしたスリルを味わいました。教授の方や助手の方々の意外な面を見ることのできたこの合宿は、これからの大学生活の参考になる楽しく有意義な合宿でした。

●私は四月に岩手から上京し、武蔵工業大学に入学しました。こちらへ来て、あまりにも急変した環境に対応することに必死でした。また、知っている人がいないという淋しさもあり、とても不安な日が続きました。しかし、このセミナーに参加し、自然の豊かなセミナー・ハウス

(大妻女子大学児童学科・戸部由佳子)

ら話したことの無い人と、交流を深めることができました。分散ミーティングでは、教授にお話を伺うために暗い中を遠く離れたセミナー室に向わなければならず、ちょっとしたスリルを味わいました。教授の方や助手の方々の意外な面を見ることのできたこの合宿は、これからの大学生活の参考になる楽しく有意義な合宿でした。



満開のしだれ桜を背景に——オリエンテーション・キャンプを終え、日本人学生・教師と写真に収まる慶応義塾大学の新入留学生たち（'93. 4. 25／本館前）

での生活の中で自分を出すことができ、また沢山の気の合う仲間もできました。このように心を開けるようになった機会を与えてくれたこのセミナーは、私にとつてとても意義あるものでした。
 ●（武蔵工業大学電子通信学科・川村陽子）
 「清貧」——そんな言葉で貫かれた生活を体験できて非常に良かったと思う。普段自分がどれほど豊かでぜいたくな生活をしているかを思い知らされた気がした。また、人間は自然の中で自然と共に生きていくのが本来の姿であるのだと想った。いつもは何気なく口に出している野菜も、何か尊いもののように感じられた。簡素なしかし清潔な部屋で友人達と夜遅くまで語り合ったことは、きっと一生涯

れないと思う。

（津田塾大学英文学科・加藤綾子）

●私は文を書くのが大嫌いです。でも今日、あえてこの紙に文を書く気になったのは久しぶりに考えさせられたからです。私は何でも中途半端で、でもそれで満足していました。そして、他の人の物の考え方や意見を聞いては、やっぱりそんな自分は嫌だ、なにか熱中できるものを探そう、いつも決意していました。中途半端に満足しているようで実はものすごく不安だったのです。今日、クラスの人のいろんな考え方を知りました。今日は別の意味で新たな決意をしました。今までの自分は何に対しても欲ばりで、それがかえって悪い方向に行っていたようです。でも今から欲ばらずに、一つ一つ与えられたこと、見つけたこと、知ったことをゆつくりと吸収しようと思いました。今日のセミナーで教えられたことは、この大学生活四年間に大きな影響を与えたいと思います。

（東京学芸大学数学科・浦辺雅子）

●セミナーでの生活は、普段の生活とはまさにかけ離れているものだった。部屋にはテレビもなく、都会の情報が入ってこないの変わりに気持ちがいい。お風呂に入った後、星空を見上げながら部屋へ戻り、朝は小鳥のさえずる中、友達との挨拶で始まった。また、この二日の間で友達・先輩・先生方との交流を深められたことが一番の思い出だろう。自然のあふれる中、人とのふれあいも十分に感じる

①9

ことのできた貴重なひとときだった。

（東京都立川短期大学・初谷輝子）

●日々時間に追われ、人との交流が失われがちな現代において、自然の中の簡素な場所で誠に有意義な体験ができたことは非常に幸運であった。普段の大学とは



円陣を作って——2泊3日のオリエンテーションセミナー中日の午後、クラス別のレクリエーションで、ゲームを楽しむ白梅学園短期大学保育科の新入生たち（'93. 5. 27／本館前広場）

●セミナー・ハウスでの生活は予想していたものと大きな差があったのだが、何事も自分の責任において行ない、共同生活をするという機会は、なかなかないのである。そして、友人と寝食を共にすると、うことはさらに親交を深めるもの

違った教官の姿を見、その教官や先輩方から学生生活のことや物理学について貴重な話を聞き、これからの学生生活の糧となる重要な情報を得ることができた。

（東京学芸大学物理学教室・岩本 哲）

になると確信している。そのような中で様々なことを語りあうということは自身が大きく成長でき、また生涯の友をも得ることができらるだろう。

（日本女子大学教育学科・柏倉智子）

利用状況

* 〓 同月2回利用
 ** 〓 同月3回利用
 *** 〓 同月4回利用
 日帰りを除く

■ 3月(104グループ、延六、〇〇九人)

| | | | |
|------------------------|-------|--------------------------|--------------------------|
| 中央大学アイセック | 柳原 敦夫 | 明治学院大学教授* | 増田 茂樹 |
| 桜美林大学教授 | 柳原 敦夫 | 専修大学教授 | 竹林 代嘉 |
| 中央大学経済学部ゼミナール連合会 | 柳原 敦夫 | 法政大学教授 | 廣田 明 |
| 慶応義塾大学英語会 | 柳原 敦夫 | 名古屋大学助教授 | 永津 雅章 |
| 東京学芸大学源氏ゼミ | 柳原 敦夫 | 上越教育大学教育学部教育学研究會 | 菅原 健介 |
| 成蹊大学文化会 | 柳原 敦夫 | 東京大学教育学部附属高等学校 | 江戸川 大輔 |
| 早稲田大学教授 | 鈴木 洵 | 青山学院女子短期大学ハンドベル・クワイア | 竹田いさみ |
| 早大雄弁会・慶大弁論部交流会 | 鈴木 洵 | 獨協大学助教授 | 田島 泰彦 |
| 筑波大学数学教育研究会 | 鈴木 洵 | 神奈川大学助教授 | 小川 家資 |
| 東京大学教授 | 河野 元昭 | 西東京科学大学助教授 | 川上 則道 |
| 国際基督教大学教授 | 三宅 彰 | 都留文科大学教授 | 藤原 静雄 |
| 東京経済大学英語研究会 | 三宅 彰 | 国学院大学助教授 | C・I・Cカナダ国際大学新入生オリエンテーション |
| 東京大学教授 | 佐伯 胖 | R・I・Cカナダ国際大学新入生オリエンテーション | 九州大学教授 |
| 東京農工大学助教授 | 佐伯 胖 | 東京大学加藤ゼミO.B会 | 獨協大学教授 |
| 中央大学アナウンス研究会 | 亀山 純生 | 国際経済商学学生協会 | 高エネルギー物理研究会 |
| 東京経済大学文化会 | 亀山 純生 | 国際基督教大学・日本女子大学合同ゼミナー | 東京大学加藤ゼミO.B会 |
| 早稲田大学理工学部英語会 | 角瀬 保雄 | フランス語応用普及協会* | 国際経済商学学生協会 |
| 法政大学教授 | 角瀬 保雄 | 進化学研究会 | 国際基督教大学・日本女子大学合同ゼミナー |
| 東京大学助教授 | 中島 匠一 | 第12回大学院共同セミナー | マックス・ヴェーバー「ロシア革命論」研究会 |
| 中央大学教授 | 長内 了 | 現象学的社会学研究会 | フランス語応用普及協会* |
| 早稲田大学コンツェルト | 寺中 良二 | キリスト者学生会 | 進化学研究会 |
| 駒沢大学教授 | 佐藤 元洋 | 竹内啓一先生を囲む会 | 第12回大学院共同セミナー |
| 青山学院大学教授 | 望月 清司 | 日本T.A協会 | 現象学的社会学研究会 |
| 明治学院大学E・S・S | 望月 清司 | 日本社会科学研究会 | キリスト者学生会 |
| 専修大学教授 | 望月 清司 | 日本ユネスコ協会連盟 | 竹内啓一先生を囲む会 |
| 東京大学比較文化研究室 | 丹木 博一 | ミッシェル・エイド・クリスチヤン・フェローシップ | 日本T.A協会 |
| 上智大学助手 | 大槻 義彦 | からだとことば研究所 | 日本ユネスコ協会連盟 |
| 早稲田大学教授 | 市川 孝正 | 日本幼児健康教育学会 | ミッシェル・エイド・クリスチヤン・フェローシップ |
| 早稲田大学教授 | 市川 孝正 | 阿佐ヶ谷教会 | からだとことば研究所 |
| 東京薬科大学新歓祭実行委員会 | 市川 孝正 | 日本人間工学会 | 日本幼児健康教育学会 |
| 早稲田大学絵画会 | 吉田 宣之 | 東京国際基督教会 | 阿佐ヶ谷教会 |
| 中央大学講師 | 水野 節夫 | 山王教育研究所 | 日本人間工学会 |
| 法政大学教授 | 佐藤 宗子 | 文学教育研究者集団 | 東京国際基督教会 |
| 千葉大学助教授 | 松井 正之 | 国際教育交流協会 | 山王教育研究所 |
| 電気通信大学助教授 | 松井 正之 | 国際教育交流協会 | 文学教育研究者集団 |
| 工学院大学生協組織部 | 松井 正之 | 国際教育交流協会 | 国際教育交流協会 |
| 学習院大学シエイクスピア・ドラマ・ソサエティ | 松井 正之 | 国際教育交流協会 | 国際教育交流協会 |

わたしたちの合宿 その1

雰囲気わかり、不安が減る

独文専攻の新生オリエンテーション

中央大学文学部教授 野口 薫

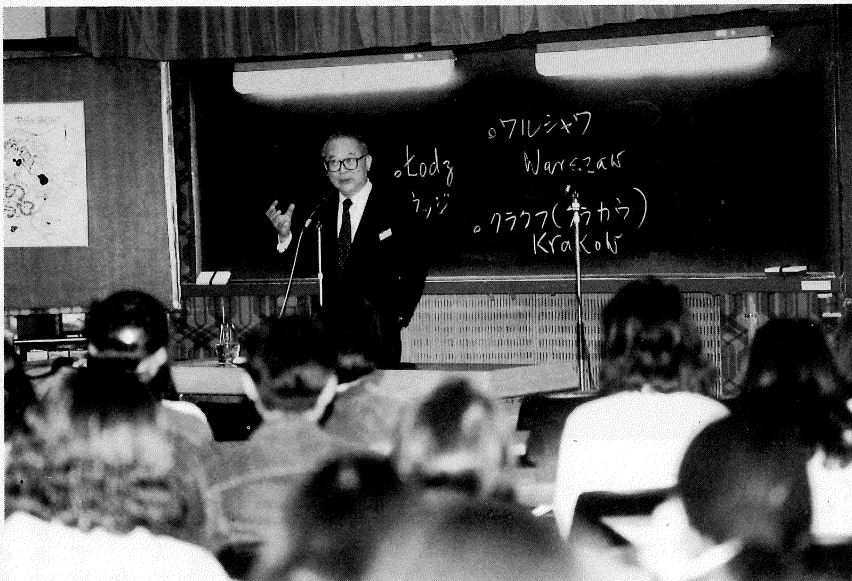
我々の「独文専攻新生オリエンテーション合宿」の歴史はまだ新しい。専攻の長老、福田宏年教授の提案で、90年度4月入学生を迎えた時に、富浦にある中央大学の寮で行なったのが第1回、第2回は、オリエンテーションの国立青少年センター、そして昨92年度からここ、八王子、大学セミナー・ハウスを拝借している。

でも安心して発言し、失敗も教室を明るくする笑いとなる。我々の専攻は、春はこのオリエンテーション合宿、夏は河口湖でドイツ語合宿などを行なう。私は毎年そ

これらの準備実行の任にあたって来たが、本当はうっかりほんやり人間で、組織力、統率力ゼロ、会計もへた、楽しい雰囲気を作ることはもったへたである。でも、だからこそなのかも知れない、学生達の輪が、頼りない私をがっしりと支えていてくれる。第1回の時の1年生が今は4年生になり、代々下級生を指導しながら、合宿を作ってくれてくれている。私は中大生に惚れ込んでいる。

今年は4月9、10の両日に実施、新生が昼間部、夜間部合わせて90名、ドイツからの留学生2名、卒業生2名、上級生25名、教員10名が、泊2日、起居を共にした。今回は、小塩節教授の「新生を迎える言葉」で幕を開け、OB、OG、在校生、教員による「大学とはどういうところか?」というパネル・ディスカッション、それを受けての翌日の小グループでの話し合いが続き、そしてその間に上級生が工夫を凝らして準備した、軽いスポーツ、クイズ大会やコンパなどが入る、というプログラムであった。

わずかこれだけの合宿だが、高校や予備校の仲間と分かれ、約4割は親元を離れて初めてこのころに来ている新生たちはこれと友達な感じ、上級生や教員と少なくとも顔なじみになる。専攻の雰囲気はわかり、不安がいくらかは減る。これがどれほど大きなことかは、授業を開始してみるとよくわかる。やるぞ、という気の顔が教室にならんでいて、大きな声で「Guten Tag」を言ってくれるのである。仲間意識ができてくるから、はじめて学ぶドイツ語の教室



小塩節教授の「新生を迎える言葉」で幕を開けたオリエンテーション合宿 (93. 4. 9/講堂)

アイワールド* / 安川電機 / 雪印物産 / 日本ミクロコティンク* / キリンビジネスシステム* / センチュリーメディアカル / 日産クレジット / 河内屋* / サントリーフーズ / 日本POP広告協会 / ジイケイテック / 生活協同組合コープとうきょう / 昭和飛行機工業 / 宙設計 / 光印刷 (個人利用)

高千穂商科大学助教授 岩田 伸人
 東京都立科学技術大学客員教授

H・リップマン

4月(91グループ、延七、一四一人)

学習院大学教授 坂本孝治郎

千葉大学助教授 武蔵 武彦

日本大学教授 山上 徹

日本大学教授 馬場 昭

東京薬科大学新入生歓迎キャンパス

明治学院大学助教授 水谷 史男

明治大学教授 西野 万里

明治大学教授 野田 稔

立教大学フランス文学科新入生オリエンテーション

中央大学伊藤ゼミ

日本大学教授 古坂 良雄

東京学芸大学教授 山田 有策

日本大学教授 見田 宗介

日本大学教授 小林 晃

東京純心女子短期大学音楽・美術・英語科オリエンテーション

東京都立大学仏文学科ガイダンス・セミナー

東京工芸大学光工学科新入生オリエンテーション

青山学院大学教授 中澤 進一

明治大学後藤経済政策ゼミナール

千葉大学助教授 工藤 秀明

中央大学独立文専オリエンテーション

学習院大学政治学科フレッシユマ

ン・セミナー

横浜国立大学助教授 鳥居 伸好

東京都立大学史学科新2年生ガイダンス

法政大学教授 佐藤 博樹

中央大学教授 長谷川 幸生

東京大学教授 井田 喜明

早稲田大学講師 深澤 實

東京都立大学精密機械学科新入生ガイダンス

東京都立大学機械工学科新入生ガイダンス

東京学芸大学幼児教育学科新入生オリエンテーション

東京農工大学教授 奥山 健二

法政大学教授 松尾 重一

成蹊大学教授 宇野 重昭

日本女子大学福祉学科新入生オリエンテーション

駒沢大学教授 大久保治男

明治大学教授 森 久

工学院大学教授 大柳 康

工学院大学教授 清水寛一郎

中央大学教育学コース新入生オリエンテーション

東京都立大学工業化学科新入生ガイダンス

東京電機大学情報科学科新入生研修

お茶の水女子大学助教授

熊谷 圭知

中央大学助教授 辰馬 信男

杏林大学教授 熊谷 文枝

東京都立商科短期大学経営学科II部オリエンテーション

慶応義塾大学国際センター新入留学生オリエンテーション

東京都立大学ゆうゆう会

駒沢大学教授 瀬戸岡 紘

学習院大学講師 江波戸 昭

立教大学ドイッテ文学科集中演習I

東京都立医療技術短期大学新入生オリエンテーション

東海大学西洋史学科新入生研修会

大妻女子大学児童学科新入生オリエンテーション

武蔵工業大学電子通信工学科新入生歓迎セミナー

東京農工大学教授 秋山 三郎

専修大学教授 麻島 昭一

白梅学園短期大学専攻科外研修

獨協大学助教授 渡辺 学

文教大学教授 戸田三三冬

共栄学園短期大学生活学科新入生オリエンテーション

私の国際交流 その1

誠意をもって交流することが大事だ

アイセックそしてNLDS '93

慶応義塾大学経済学部3年 磐本 優

20世紀に勃発した2度にわたる世界大戦で人々は苦痛と悲しみの淵に陥りました。それは世界中の学生たちも同じであったでしょう。そんな中、西欧7か国の学生を中心に恒久的な平和を求めて一九四八年に発足されたのがアイセック(国際経済商学生生協会)です。現在では76か国、約5万人を超す学生が加盟し「恒久



▲3泊4日の全国代表者会議最終日の全体集会
 ▶NLDSのホスト役を務めた慶応義塾大学の実行委員長たち——左から3人目が磐本優さん('93.3.11)

的な平和と若者の可能性の発展」という究極の目標のもと、異文化間のギャップ、学生と実社会とのギャップを乗り越える架け橋となるべく日々活動を行なっております。具体的には海外企業への研修生の派遣、国際会議、二国間交流、セミナーなどをこなしております。

私自身、アイセックに入会して以来、様々な活動に参加し、多くの人々と知り合い、交流してきました。その中で、ひとつひとつの「出会い」の大切さを実感しました。なぜならば、ひとと出会い、意見をぶつけ合うことでこんな考え方、見方があったのかと新たな発見が得られるからです。そのためにも自分のこと(考えも含めて)をわかってもらう、相手のことを知ろうと誠意をもって交流することが大事だと思います。このことは異文化の人と交流するときに特に重要なことだと思います。

3月初旬にアイセックによるNational Leadership Development Seminar (NLDS) が大学セミナー・ハウスで行なわれました。このセミナーは国内のアイセックのメンバーの代表約200人を集めて、知識・スキル習得、意見交換のために行なわれました。私たちはこのセミナーで個々のプログラムと共に、セミナー・ハウスでの生活そのものも重視しました。つまり朝起きて夜寝るまで各自が責任ある行動をとるということです。

あたりのことですが、これから実社会、あるいは国際社会へ出てゆく私たちに、「常識」を持つて責任ある行動をとることがいかに大切であるかを、大学セミナー・ハウスの方とお話したり、案内書をよく読むことを通じて強く感じたからです。今回セミナーで多くの人と交流し、セミナー・ハウスで生活したことで参加者全員が何かを「発見」し、今後の活動に大いに活かしてゆくことと確信しています。

私の国際交流 その2

P450研究の新しい流れ

第2回微生物と植物のP450に関する国際シンポジウム

シンポジウム組織委員会副委員長 吉田雄三

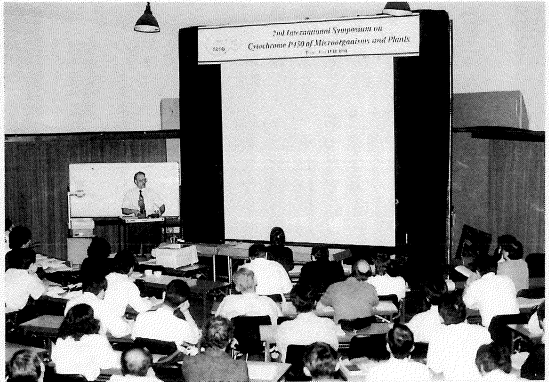
武庫川女子大学薬学部教授 吉田雄三

P450とは、生物信号物質(ホルモン)や花の色や香りを与える物質(毒素や抗菌性物質など)の合成、外界から侵入する異物(薬物や環境汚染物質など)の分解など、生物が環境と折り合っていくために必要となる多彩な低分子物質の代謝に関与している酵素群に与えられた総称であり、医学、生物学のみならず農学、薬学さらには生物工学などの応用分野からも関心をもたれている酵素である。このシンポジウムは、P450の機能をより広く追及すると共に、P450の持つ多彩な機能を有用物質の生産や環境汚染物質の分解に利用する可能

性を求めて、微生物と植物のP450に関する研究の発展を計ることを目的として組織されたもので、第1回は昨年ベルリンで開催された。今回は、14カ国から約150名の研究者の参加を得て、6月13日から17日の5日間にわたって活気溢れる講演と熱心な討論が行なわれた。このシンポジウムにおいて多くの参加者が異口同音に指摘したことは、動物の酵素を中心としてややマンネリズムに陥った感のあったP450研究が、微生物や植物を対象とすることによって新しい方向に進み出したことを確信したということであり、基礎と応用の協調という側面を含めて、P450研究の

- 共栄学園短期大学英語学科新入生オリエンテーション
八千代国際大学助教 山口 桂子
日本医学技術専門学校新入生オリエンテーション
文政大学助教 広内 哲夫
神奈川大学助教 堀野 定雄
港湾職業能力開発短期大学校新入生オリエンテーション
東京職業能力開発短期大学校新入生ガイダンス
大月短期大学助教 村越 洋子
東京会計法律学園就職セミナー
十文字学園女子短期大学生活学専攻交歓会
玉川大学助教 佐々木正己
言語研究会
八王子高齢者学園
山王教育研究所
キリスト聖書塾
ローリション協会
雪印物産/市光工業/アスター精機/ベルモント化粧品/利根地下技術/日本石油化学/稲村・津谷会計事務所/西東京共同法律事務所/ウバハウス/日本分光/三井信託銀行(個人利用)
V研究会
東京大学助教 吉本 昌司
5月(80グループ、延6,七五九人)
立教大学講師 中島 匠一
立教大学講師 正田 康行
中央大学英米法研究会 有馬 賢治
一橋大学助教 矢澤修次郎
中央大学助教 田中 拓男
芝浦工業大学電子計算機研究会
学習院大学シイイクビア・ドラマ・ソサエティ
学習院大学助教 齊藤 孝
日本大学助教 北野 弘入
中央大学白門会
中央大学英文講読ゼミ
津田塾大学英文学科フレッツシユマ・キャンプ
東京学芸大学障害児生理心理学研究会
東京学芸大学各教室新入生合宿研修

- 数学教室/生物学教室/地学教室/物理学教室/化学教室/理科教育教室/文化財科学教室/自然環境科学教室/教育情報科学教室
東京都立商科短期大学商学科II部新入生歓迎オリエンテーション
千葉大学助教 服部 岑生
立教大学助教 中江 幸雄
法政大学講師 高橋 実
法政大学助教 内内 秀信
東京都立立川短期大学生活・食物栄養学科新入生歓迎セミナー
東京都立商科短期大学商学科新入生歓迎オリエンテーション
東京学芸大学電気工学、電子・情報工学科新入生オリエンテーション
東京学芸大学英語学科交流会
東京理科大学狩野・高橋ゼミ
東京都立大学助教 柳田 辰雄
埼玉大学電気電子工学科新入生厚生補導
早稲田大学助教 成田誠之助
学習院大学助教 飯坂 良明
明治学院大学第II部社会学科フレッツシユマ・キャンプ
上智大学助教 小川 捷之
駒沢大学助教 谷敷 正光
桜美林大学・短期大学体育文化団体連合会
文教大学女子短期大学部英語英文科フレッツシユマ・セミナー
東京外国語大学助教 宇佐美 滋
一橋大学助教 水岡不二雄
中央大学くるみラグビークラブ
学習院大学助教 坂本孝治郎
日本女子大学教育学科新入生オリエンテーション
立教大学講師 郭 洋春
中央大学経済学部ゼミナール連合会
白梅学園短期大学保育科新入生オリエンテーション
芝浦工業大学助教 高橋 清
中央大学カールトンゼミ
武蔵工業大学助教 安田 忠郎
東京都立大学物理学科新入生オリエンテーション
東京都立大学数学科新入生オリエン



▲活気溢れる講演と討論が5日間にわたって繰り広げられた(’93. 6. 16/講堂)
▶最終夜のパンケットでは地元有志による勇壮な和太鼓も披露された(’93. 6. 16/食堂)



An ideal place to have fruitful scientific discussions
The Symposium became very successful because of the excellent organization by the organization committee and the wonderful landscape within fascinating greenery.
The campus reminds me of my unforgettable practice in biology when I was a student and stayed there for few weeks at a biological station, learning in thirst of knowledge all the details of botany and zoology.
This natural environment was an ideal place to have fruitful scientific discussions and to join in contact with the other participants of the symposium all over the world.
I was impressed by the gentle, friendly and very competent service by the staff. I am very glad that my first trip to Japan begun in an atmosphere of harmony and mental relation, but not in stress.
By this way I want to thank the organizers for inviting me and offering me so much positive feelings about the symposium.
Wrich Scheller, Biochemist (Germany)

テーション
 東京都立大学化学科新入生オリエンテーション
 東京学芸大学教授 原 聡介
 東京学芸大学心理臨床専攻新入生合宿
 桜美林大学ヴォランティア

わたしたちの合宿 その2

コメは弥生時代から二千年以上のあいだ日本の食糧における主食の座を占めてきました。江戸時代には大名や武士の俸禄が何万石とか何百石というようにコメを基準とし、また換算されて給付されたように、コメは日本人にとっては貨幣にもまさる

農業を大事に、農村を復興させるには
 ——農村社会学研究室の合宿——

明治大学農学部教授 長谷川昭彦



現在の日本は、バブル経済がはじけて極端な不況の中にあります。このようなときに、今年のコメの不作為で日本の経済はさらに苦境に立たされると考えられます。農業以外にもリジナルなエネルギー源をほとんどもたない

価値の尺度でもありません。農民は少しでもコメを多くとることを祈念し、豊作を願ってきました。そして第二次大戦後の食糧難の時代を経験した年輩の人たちは生きるために食糧の重要性について身をもって経験しています。しかし、60年代以降の高度経済成長した工業化の時代を経て、70年代後半にはコメが余ると言うことで減反をし、生産調整

日本が農業を粗末に扱ってきた不況の中でさらに停滞化していくのは必定であります。逆にいえば、日本が不況や停滞から脱出していく道は日本の唯一のオリジナル・エネルギー源である農業をもっと大事にし、農村を復興させることから始まるであろうとも考えられます。現在、工業化が発展し、都市化が進んだ日本において、農業や農村を

東京会計法律学園就職セミナー***
 千葉英和高校
 帝京山梨看護専門学校
 武蔵野外語専門学校新入生オリエンテーション
 町づくり研究会
 浦和教会

をしようになりました。それにもかかわらず、実際には日本の食糧自給率は下がり続け、オリジナルなカロリー(家畜の飼料まで含める)で47%、穀類だけでは30%という自給率になってしまいました。自給率が極端に低いのにコメを作つてはいけないという状況は農業に對する先行き不安と農業を軽視する風潮を作り上げてきました。これは若い人々をはじめ多くの人を農業や農村から工業ないし都市への移動に駆り立て、国土の47.7%、全国市町村の37%を過疎地としてしまいました。

研究することは、時代遅れでありナシセンスであると思われる傾向がないわけではありません。たとえば、大学の研究室でも農村や農業という名前をことさらにさげたり、名前を変えるところも多い。しかし全世界的な視点から見れば、都市化や近代化の進んでいない国は多く、食糧の足りない国も非常に多く、この点からも農村や農業発展の研究の重要性はいかに強調してもしすぎることはないと思われまます。

私たちのゼミは、上のような問題点から、農村社会学を研究しています。農村社会学は農村の基礎的社会関係や社会集団から農村を研究しようとする学問であります。地域社会の原点としての村落共同体から出発して地域農業、生活構造、家族、そして地域社会に焦点を当て、実態調査を通じて、激しく揺れ動く日本の農村社会の変動の方向性と活性化の方向を探ろうとしています。研究の対象は、日本を中心にアジアやアフリカにも及びたいと思っております。その手始めにアフリカのナイジェリアから研究生(写真左から2人目)を招き、また、インドの農村研究をも手がけつつあります。そして私たちのゼミでは、年に1回以上は大学の外で特別訓練の合宿を行なっています。八王子の大学ゼミナール・ハウスでは、時には満員で断られることもありましたが、学生たちと縁の自然に囲まれた有機的環境のなかで、論議を尽くすことができ、本当に感謝しています。

現在、工業化が発展し、都市化が進んだ日本において、農業や農村を

(個人利用)
 東京大学助教 中島 匠一
 V研究会 吉本 昌司
 国際学生ゼミナール同窓会 吉原 健吾
 ■6月(58グループ、延四、三五五八)
 淑徳大学助教 野田 陽子
 中央大学助教 青野 寿彦
 東京経済大学助教 依田 精一
 東京都立大学教育大学院生会 栗原 彬
 立教大学助教 添谷 芳秀
 慶応義塾大学助教 投野由紀夫
 東京学芸大学講師 長谷川昭彦
 明治大学助教 十代田知三
 芝浦工業大学助教 朝倉 孝吉
 東洋英和女学院大学助教 朝倉 孝吉

大妻女子大学短期大学部実務英語科 新入生オリエンテーション
 千葉商科大学体育会本部フレッシュマン・キャンプ
 杏林大学新入職員研修
 一橋大学助教 山本 武利
 東海大学助教 師岡 孝次
 中央大学助教 高窪 利一
 東京理科大学狩野・高橋ゼミ
 東京都立大学建築学科新入生オリエンテーション
 学習院大学助教 菅 忠義
 駒沢大学助教 谷敷 正光
 東京造形大学助教 星野 隆三
 阿佐ヶ谷美術専門学校 創価大学国際関係ゼミ
 東京商船大学在来生オリエンテーション

日本女子大学附属高等学校 目黒星美学園小学校教職員研修
 郡内研究会
 国際学生ゼミナール同窓会
 第2回微生物と植物のチトクロームP450に関する国際シンポジウム
 重水素同位体研究会
 第21回十大学合同ゼミナール
 日本建築学会農村計画委員会
 第14回日豪合同ゼミナール
 大学天文連盟変光分光学会
 エイ・エフ・エス日本協会

日本機械学会モータ解析研究会
 新日本建築家協会関東甲信越支部
 ルソール合奏団
 国際交流サービス協会県合同日本語基礎研修
 トリニティ・コンサルタント* / チャンピオン美容室 / ヒューマンライフセンター / ヘキストジャパン / オキ / 管理者養成学校 / テクニカル・サプライ / 多摩更生園労働組合 / 京セラ / 東京海上システム開発* / 東都生活協同組合 / 富士電機

(個人利用)
 慶応義塾大学生 佐藤 哲彰
 大阪市役所 根来 譲二
 東京大学助教 中島 匠一
 安田精工 金井ハツエ

■7月(74グループ、延四、九八五八)
 中央大学助教 下村 康正
 東京理科大学助教 沖塩莊一郎
 立教大学助教 土方文一郎
 東京学芸大学助教 三笠 乙彦
 国際基督教大学心理学サマーゼミナール
 立教大学助教 栗原 彬
 東京外国語大学助教 中嶋 嶺雄
 東京大学助教 石田 勇治
 東京大学助教 平野 敏右
 お茶の水女子大学文教育学部新入生ゼミナール
 お茶の水女子大学理・生活科学部新入生ゼミナール

千葉大学社会学調査実習
 東京大学助教 吉見 俊哉
 東京学芸大学助教 渡辺 道子
 上智大学講師 栗原 悟
 東京外国語大学助教 若林 俊輔
 東京理科大学狩野・高橋ゼミ
 中央大学助教 三浦 俊彦
 中央大学エクス・マルセイユ大学短期留学研修会
 東京理科大学II部物理研究部
 日本大学助教 佐藤 誠
 東京外国語大学助教 佐藤 公彦
 中央大学助教 米田 康彦
 駒沢大学助教 明石 博行
 東京都立大学助教 石川 健治

日本機械学会モータ解析研究会
 新日本建築家協会関東甲信越支部
 ルソール合奏団
 国際交流サービス協会県合同日本語基礎研修
 トリニティ・コンサルタント* / チャンピオン美容室 / ヒューマンライフセンター / ヘキストジャパン / オキ / 管理者養成学校 / テクニカル・サプライ / 多摩更生園労働組合 / 京セラ / 東京海上システム開発* / 東都生活協同組合 / 富士電機

予 告

第163回大学共同セミナー

現代人と宗教のゆくえ

期日：1994年3月11日～13日（2泊3日）

◆特別講演

神は心を閉ざす？

大阪大学人間科学部教授 青木 保氏

◆セクション演習

A. 宗教とナショナリズム

金沢大学教養部教授 小林伸浩氏

B. モラル・モニズムと幸せ

広島大学文学部教授 越知 貢氏

C. 宗教とフェミニズム

近畿大学文芸学部助教授 大越愛子氏

D. 現代日本における死の問題と宗教

関西学院大学社会学部教授 対馬路人氏

E. 宗教意識の重層性と個人

東京大学文学部助教授 島 蘭 進氏

国際基督教大学教養学部準教授 宮永國子氏

<運営委員>

東京大学文学部助教授 島 蘭 進氏

国際基督教大学教養学部準教授 宮永國子氏

◆問い合わせ ☎0426-76-8532（企画室まで）

- 恵泉女学園短期大学英文学科総合科
日「国際」
成蹊大学国際交流センター
芝浦工業大学環境システム学科新入
生オリエンテーション
横浜国立大学助教授 室井 尚
東京大学講師 川人 博
筑波大学助教授 小場瀬令二
法政大学助教授 安孫子 信
上智大学講師 石塚 久郎
東京大学弁論部 寺中 良二
駒沢大学教授 大塚 和夫
東京都立大学助教授 並河 一道
東京学芸大学教授 十代田知三
芝浦工業大学教育部
中央大学通信教育部
明星大学通信教育部
芝浦工業大学・高校・中学協議会
創価大学教授 鈴木 二郎
流通経済大学助教授* 恩田 守雄
和光大学助教授 山本 清隆
獨協大学教授 大竹 孝司
東京都立神代高等学校
神奈川県立津久井高等学校
第161回大学共同セミナー
- 日本シヨウジョウヨウバ工研究会
日本精神科看護技術協会
日本ワイルド協会
八王子レクリエーション学院
国際教育交流協会
東京多摩いのちの電話
東京都レクリエーション協会
阿佐ヶ谷教会
東電学園大学部
北太平洋圏若手研究者研究交流ワー
クショップ
日本セラミックス協会ガラス部会
拝島平安伝道所
中野パブテスト教会
文学教育研究者集団
創造社/中央コンサルティング/日
産クレジット*/葉日本堂/安川電
機/ケンウッド/東芝通信テクノス
/共立建設/アイワールド/東都生
活協同組合
(個人利用)
V研究会 吉本 昌司
■8月(103グループ、延六、三七八)
千葉大学助教授 菅原 憲二
電気通信大学助教授 多田 好克
- 津田塾大学助教授 村上 健
東京理科大学講師 榎本のぞみ
東京工業高等専門学校韓国専門大
学 研修生
津田塾大学助教授 横山 久
学習院大学教授 小川 智哉
立教大学教授 山田耕之介
国際基督教大学教育セミナー
一橋大学講師 神岡 太郎
筑波大学講師 甲斐 憲次
法政大学教育問題研究会
学習院大学ボウリング同好会
東京理科大学教授 大澤綱一郎
法政大学哲学会
東京農工大学助教授 竹内 道雄
東京大学助教授 井門 俊治
東京学芸大学助教授 金谷 憲
明治学院大学助教授 橋本 敏雄
中央大学通信教育部 増田 實
武蔵大学講師 中原 章吉
駒沢大学教授 国分 康孝
筑波大学教授* 伊藤 勝彦
武蔵工業大学助教授 明星大学通信教育部 本間 誠一
法政大学講師 寺中 良二
駒沢大学教授 慶応義塾大学英语会 奥平 龍二
東京外国語大学教授 源 昌久
東京大学地球進化の研究会 藤野 喜一
電気通信大学教授 青山学院大学助教授 田中 正郎
青山学院大学文章文法研究会 青山 正郎
早稲田大学理工学部英語会 遠藤 孝
法政大学講師 明治大学教授 森川八洲男
東京大学教授 高千穂商科大学教授 佐伯 聡
東洋大学講師 林 裕二
神奈川県立津久井高等学校演劇部 永峰 章
二松学舎大学教授 石川 忠久
女子聖学院短期大学ハンドベルク
ワイアー
- 駿河台大学助教授 熊田 俊郎
山梨学院大学助教授 松丸 正延
東京国際大学助教授 萩原 康子
フランス語応用普及協会*
一橋大学国際部・津田塾大学英语会
数論セミナー
T.M.U.夏の学校
函数解析研究会
経営工学大学院生研修会
言語研究会
関東近世史研究会
劇団森
朝日カルチャーセンター
中目黒教会
文学教育研究者集団
国際教育交流協会
高橋聖書研究会
子どもとつくる生活文化研究会
日本ネイチャーゲーム協会
早稲田無教会集会
八王子市教育センター
海老名教会
阿佐ヶ谷教会
英語教育協議会
エイ・エフ・エス日本協会
東京都高等学校英語教育研究会
ライフ・ミニストリーズ
コール・グリツイーネ
世田谷市民大学
八南作文の会
青山心理臨床教育センター
仙川キリスト教会
コスモフオラム協会
美術教育を進める会
アイワールド*/松下電器産業/ス
リーポンド研究所/ヒューマンライ
フセンター/雪印物産/国際交流
サービス協会/創造社/新学社/V
研究会/多摩中央信用金庫中河原支
店/多摩中央信用金庫府中支店/ま
ちづくり研究所/国際航業/カル
ニック/国際商事法研究所
(個人利用)
東京大学助教授* 小森 陽一
東京都立科学技術大学客員教授
ス・ン・Q・P

館長室から

このところ遅れがちだったニュー
スの発行が、とうとう遅れの累積に
よって2号分の合併号をお届けする
ことになってしまいました。

企画室の人手不足がギリギリのと
ころまで来てしまい、教育プログラ
ムの遂行等の活動には支障なく、と
いうよりはむしろ、活力ある円滑な
展開をと全力を注いだ結果のしよ
せによっても申せましょうか。

でも今は、ようやく待望のよき新
人を得て、企画室は新たな活気をと
り戻しています。山積した仕事の分
担の展望がひらけただけでなく、新
しい風の刺激をうけ、ベテラン職員
は創意と工夫にみちた意見の連発：
という状況で、これからは楽しみに
なってきました。

関東南部、東京地方に大雪警報も
発せられた日、こ野猿峠は、しば
らくぶりの純白の世界となりました。
この雪景色のなか、三人の職員
が臨時の泊り込みに加わり、大雪に
備えたのでしたが、積雪もほどほど、
宿泊の方々に特に支障もなく、ホ
ットしました。

まっ白に化粧した冬木立の見事
さ、遠来荘の萱ぶき屋根に積もった
雪の風情——都心ではすぐに消えた
雪ですが、ここではしばらくの間、
多摩の雪景色が演出されました。

この雪の恵みで潤った木々や草々
が、やがての暖かさに誘われて芽を
吹き、花の蕾をふくらませること
なるうとそれが楽しみです。自然の
営みにも、またセミナー・ハウスの
活動にも、今、春に備えての力が、
ためこまれているところです。(岡)